

血液製剤に関する報告事項について (目次)

- 輸血用血液製剤で HIV 感染が疑われた事例について 3
- 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 16 年 3 月 22 日報告)について 4
- 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 16 年 11 月 26 日報告)について 5
- 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 17 年 1 月 12 日報告)について 7
- 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 17 年 2 月 4 日報告)について 9
- 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 17 年 6 月 23 日報告)について 11
- 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 18 年 4 月 7 日報告)について 12
- 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 18 年 6 月 5 日報告)について 13
- 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 19 年 2 月 20 日報告)について 14
- 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 20 年 1 月 23 日報告)について 15
- 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 20 年 2 月 8 日報告)について 16
- 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 20 年 5 月 14 日報告)について 18
- 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 20 年 9 月 18 日報告)について 19

○ 輸血用血液製剤で HCV(C 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 18 年 2 月 15 日報告)について	20
● 輸血用血液製剤で細菌感染が疑われた事例(平成 20 年 7 月 2 日報告)について	22
● 輸血用血液製剤で細菌感染が疑われた事例(平成 20 年 8 月 25 日報告)について	23
※●は今回の新規症例	

○ 平成 20 年度感染症報告事例のまとめ(平成 20 年 7 月報告分以降)について	24
○ 輸血後 HEV 感染の予防対策(問診・NATの状況)	41

< 参 考 >

・ 血液製剤に関する報告事項について(平成 20 年 10 月 6 日付け血液対策課事務連絡)	47
・ 血液製剤に関する報告事項について(回答)(平成 20 年 10 月 9 日付け日本赤十字社提出資料)	49
・(参考)安全対策業務の流れ	58

輸血用血液製剤で HIV 感染が疑われる事例について

1. 経緯等

平成15年9月5日、後天性免疫不全症候群発生届にて感染経路として輸血が考えられる HIV 感染者が報告されたとの情報を入手。同日、当該報告医が、同事例について副作用感染症報告を日本赤十字社に提出、これを受けて同社による調査が開始され、その結果が、平成15年10月30日に開催された第95回エイズ動向委員会（委員長：吉倉廣国立感染症研究所長）に報告された。

2. 事 例

50歳代の男性で平成15年の3月～7月に赤血球製剤（MAP16単位）の輸血を受けた後、実施した血液検査においてHIV感染を確認（WB検査陽性）。報告医は感染経路として輸血を疑っている。

3. 事実関係

1) 輸血された輸血用血液製剤について

- ・当該感染者には、8人の供血者から採血された赤血球製剤（MAP）が8本（保管検体の個別NATはいずれも陰性）投与された。

2) 他の血液製剤への影響について

- ・投与された赤血球製剤の原料血液からは、他に新鮮凍結血漿と血漿分画製剤用の原料血漿が製造されていた。
- ・原料血漿については流通を停止。
- ・新鮮凍結血漿については3本が製造されており、既に他の医療機関で3名の患者に投与されていた。（他に行方不明の製剤はない。）

3) 新鮮凍結血漿の投与を受けた3名について

- ・1名は既に原疾患により死亡
- ・残り2名については輸血後（約6ヵ月後）の抗体検査で陰性。

4. エイズ動向委員会での専門家からの意見

記者会見では、「HIVの感染が輸血用血液製剤によるか追求すれば、患者のプライバシーに関わりうるケースである。」との発言があった。

5. エイズ動向委員会後の事実経過

1) 健康状態の確認を行っていた2名の受血者は、いずれも感染していなかったことが確認された。

2) 供血者の次回献血での検査については、8名中6名が来訪し、感染していなかったことが確認された（平成20年10月9日現在、残る2名のその後来所なし）。

6. 今後の対応

当該感染者のプライバシーの最大限尊重を徹底しつつ、引き続き調査を継続するよう指導してまいりたい。

輸血用血液製剤で HBV（B 型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 （3月22日報告）について

1 経緯

平成16年3月22日及び30日、日本赤十字社から輸血（人血小板濃厚液及び人赤血球濃厚液）による HBV 感染の疑い事例の報告があった。

2 事例

70歳代の女性。原疾患は急性骨髄性白血病。平成15年10月5日～平成16年1月22日の間に、輸血を計18回（人血小板濃厚液10単位を11袋分並びに人赤血球濃厚液1単位を3袋分及び2単位を4袋分）受ける。

輸血前の血液検査（平成15年10月3日）では HBs 抗原及び抗体検査（B型肝炎ウイルスの検査）はいずれも陰性であったが、輸血後の平成16年3月19日に実施した HBs 抗原検査は陽性、肝機能検査（GOT、GPT 及び LDH）は高値を示す。

患者は4月26日に死亡したことを確認済み。死因は呼吸不全及び腎不全。

3 状況

（1）輸血された血液製剤について

- 当該患者には、37人の供血者から採血された血小板製剤及び赤血球製剤を輸血。
- 当該製剤に関わる血漿のうち、4人分由来の5本が新鮮凍結血漿（FFP）として医療機関へ供給された（残りは原料血漿）。

（2）37人の供血者について

37人の供血者のうち、32人の献血者がその後献血しており、検査は陰性であった。（平成20年10月9日現在、残る5人のその後の来所なし）。

（3）供血者の個別 NAT の試験結果

供血者37人の保管検体について、個別 NAT を実施したところ、全て陰性であった。

（4）患者の保管検体の個別 NAT 及び HBs 抗原の試験結果

平成16年3月19日（輸血後）の医療機関に保管されていた患者検体は個別 NAT 及び HBs 抗原検査はいずれも陽性（輸血前は保管されていなかった）。

（5）輸血と HBV 感染との関連

現在のところ、輸血と HBV 感染（当該事例の死亡原因を含む）の因果関係については不明。

4 今後の対応

（1）当該事例への対応

- 医療機関へ供給した5本の新鮮凍結血漿に関して情報提供した医療機関における受血者（患者）5名の健康状態を確認した結果、輸血後陰性が2名、不明が3名であった。
- 37人の供血者のうち、その後献血に来ていない5人のフォローを行う。

（2）血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 （11月26日報告）について

1. 経緯

平成16年11月26日、日本赤十字社から輸血（新鮮凍結血漿）によるHBV感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2. 事例

70歳代の男性。原疾患は消化器腫瘍（転移性肝癌を含む。）。平成16年3月12日から15日まで4日間に亘り、プロトロンビン時間延長のため、輸血を（新鮮凍結血漿合計36単位23本）受ける。

輸血前の血液検査（2月28日）では、HBs抗原検査陰性であったが、平成16年10月4日に肝機能検査値異常がみとめられ、黄疸を呈したため、10月8日に検査したところ、HBs抗原陽性、HBs抗体陰性が確認され、急性B型肝炎と診断された。11月17日に右大量胸水を呈した後、呼吸状態悪化により死亡した。また、平成15年5月の手術の際にも新鮮凍結血漿2単位22本、赤血球MAP2単位3本の輸血を受けている。

3. 状況

(1) 輸血された血液製剤について

- ① 当該患者には平成16年3月の輸血時に23人の供血者から採血された新鮮凍結血漿を輸血。また、平成15年5月に25人の供血者から採血された新鮮凍結血漿及び赤血球MAPを輸血。
- ② 平成16年3月輸血の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿は2本が確保、10本は使用済み、新鮮凍結血漿10本及び赤血球MAP23本は全て医療機関に提供済み。
- ③ 平成15年5月輸血の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿21本は使用済み、新鮮凍結血漿6本及び赤血球MAP22本は全て医療機関に提供済み。

(2) 48人の供血者について

- ① 平成16年3月の輸血時の供血者23人のうち、19人が再献血し、再献血時の検査結果は18人がHBV関連検査陰性、1人はHBc抗体はEIA法陽性、HI法陰性、HBs抗体（EIA法）陽性（NAT及びHBs抗原陰性）であった。なお、この1人の献血時のHBc抗体はEIA法で陽性、HBs抗体も陽性であった（平成20年10月9日現在、残る4人のその後の来所なし）。
- ② 平成15年5月の輸血時の供血者25人のうち、21人が再献血し、再献血時の検査結果はHBV関連検査陰性であった（平成20年10月9日現在、残る4人のその後の来所なし）。

(3) 供血者個別NATの試験結果

- ① 平成16年3月の輸血時の供血者23人の供血時の保管検体について、個別NATを実施したところ、すべて陰性であった。
- ② 平成15年3月の輸血時の供血者25人の供血時の保管検体について、個別NATを実施したところ、すべて陰性であった。

4. 今後の対応

- (1) 供血者48人のうち、8人の再献血・検査に係るフォローを行う。

(2) 血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

(3) その他

- ① 受血者の輸血後検体(10月12日)を確保し、再検査したところ、HBs 抗原 (+)、HBs 抗体 (-)、HBc 抗体 (+)、HBV-DNA (+)であった。
- ② 受血者の肝臓については、平成15年に施術され、平成16年10月の腹部CTでは再発が認められておらず、肝臓と肝障害との因果関係はないものと考えられる。

輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 （1月12日報告）について

1 経緯

平成17年1月12日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液、血小板濃厚液）によるHBV感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

60歳代の男性。原疾患は血液疾患。平成16年1月8日から5月25日まで12回にわたり、輸血（赤血球濃厚液合計26単位、血小板濃厚液合計30単位）を受ける。

輸血前の血液検査（1月8日）では、HBs抗原検査陰性であったが、平成16年11月18日に食欲不振のため、検査したところ、HBs抗原陽性が確認され、同22日の採血の検体で、HBs抗原（+）、HBs抗体（-）、HBc抗体（+）、HBV-DNAのNATの（+）も確認された。平成17年1月8日劇症肝炎を呈した後、肝不全により死亡した。

3 状況

(1) 輸血された血液製剤について

- ① 当該患者には16人の供血者から採血された赤血球濃厚液及び血小板濃厚液を輸血。
- ② 輸血の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿は3本が確保、12本は使用済み、新鮮凍結血漿12本は全て医療機関に提供済み。

(2) 16人の供血者について

- ① 輸血時の供血者16人のうち、12人が再献血し、再献血時の検査結果はHBV関連検査（-）であった。（平成20年10月9日現在、残る4人のその後の来所なし）
- ② 供血時保管検体の2人の陽性血から、原料血漿2本、新鮮凍結血漿が2本製造され、原料血漿は使用済み、新鮮凍結血漿も使用済みであった。当該新鮮凍結血漿の受血者2名のうち、1人は輸血後11日目で死亡、もう1人はHBs抗原検査（-）であった。

(3) 供血者個別NATの試験結果

- ① 輸血時の供血者16人の供血時の保管検体について、個別NATを実施したところ、2人がNAT（+）であった。
- ② 当該2人は、共に、複数回再献血を行っているが、再献血時にHBV関連検査（-）であり、HBc抗体及びHBc抗体-IgMは（-）、個別NATも共に（-）であった。
- ③ 当該2名の供血時の保管検体のウイルス解析の結果、共に、ゲノタイプCサブタイプadrと推定、また、497番目と498番目の間に12塩基が挿入した極めて特殊な変異株と挿入のない野生株が存在していた。これらは、受血者の血液も同様に挿入のある変異株と挿入のない野生株を有しており、三者のウイルスのシーケンスは完全に一致した。

4 今後の対応

(1) 血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

(2) 輸血時の供血者16人のうち、再献血に訪れていない4人について引き続き、調査

する。

(3) その他

- ① 供血時保管検体でNAT（+）となった2名は、その後の再献血の検査がすべて（-）であり、HBc抗体も（-）であり、感染歴があった可能性は低い。
- ② また、発見されたウイルスのシーケンスは稀なものであり、これらが偶然に保管検体2本一致することは考えにくい。
- ③ 当該供血者の血液から同時に製造された新鮮凍結血漿の受血者で感染は発生していない。
- ④ 以上のことから、NAT時に受血者血液が供血者サンプルに混入する等の測定上の誤差が発生した可能性も考えられる。

輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 （2月4日報告）について

1 経緯

平成17年2月4日、日本赤十字社から輸血（人赤血球濃厚液）によるHBV感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

60歳代の男性。原疾患は悪性腫瘍。平成16年9月8日から11月24日まで、貧血のため、輸血を計9回（人赤血球濃厚液合計14単位）を受ける。

輸血前の血液検査（平成16年8月3日及び9月8日）では、HBs抗原検査陰性であったが（9月8日はHBs抗体及びHBc抗体検査も陰性）、平成16年11月24日の輸血時にHBs抗原検査陽性が確認された（HBs抗体及びHBc抗体検査は陰性）。

平成17年1月26日の輸血施行時に、HBs抗原検査陽性に加え、HBc抗体検査が陽性となり（HBs抗体検査は陰性）、1月31日には黄疸が出現するとともに、肝機能検査で高値を示し、2月2日に劇症肝炎により死亡した。

なお、当該患者の輸血前血液（平成16年9月8日）の保管検体のHBV-NATは陰性で、輸血後血液（平成16年10月21日）はHBV-NATは陽性であった。輸血後血液から検出されたHBVは、ジェノタイプB、サブタイプadw、CP/Pre C領域はe抗原が産生できない変異株であった。HBV-DNA量は 2.9×10^{10} Copies/mLであった。

3 状況

（1）輸血された血液製剤について

- ① 当該患者には9人の供血者から採血された赤血球濃厚液を輸血。
- ② 9人の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿7本及び新鮮凍結血漿2本を確保済み。残りの新鮮凍結血漿2本は医療機関へ供給済みであるが、医療機関への情報提供は実施済み。

（2）9人の供血者について

- ① 供血者9人のうち、当該患者の平成16年10月21日採血の輸血後血液がHBV-NAT陽性であったことから、10月21日輸血以前（9月8日～9月10日）の輸血に係る4人の供血者に対して供血者に呼び出しの協力を依頼し、3人は再献血又は再採血済み。
- ② 10月21日輸血以降の供血者について、2人がその後再採血検査済み。
- ③ ①及び②の計5名については、HBV個別NATを含めHBV関連検査は陰性だった。ただし、①の3名のうち、1名はHBc抗体がEIA法のみ陽性、HI法は陰性だった。（平成20年10月9日現在、残る1名のその後の来所なし。）

（3）供血者個別NATの試験結果

輸血時の供血者9人の供血時の保管検体について、個別NATを実施したところ、すべて陰性であった。

4 今後の対応

（1）9月8日～9月10日輸血の4人の供血者のうち、残る供血者1人の再献血・検査に係るフォローを行う（再採血の依頼中）。

（2）血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

(3) その他

悪性腫瘍の治療にプラチナ系抗癌剤等（8月18日）及びテガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム（11月10日）を使用しており、薬剤性の劇症肝炎の疑いも完全には否定できない。

輸血用血液製剤で HBV（B 型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 （6月23日報告）について

1 経緯

平成 17 年 6 月 23 日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液及び新鮮凍結血漿）による HBV 感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

50 歳代の男性。原疾患は消化管腫瘍。平成 17 年 2 月 3 日に手術施行のため、赤血球濃厚液合計 8 単位、新鮮凍結血漿合計 30 単位を受ける。

輸血前の血液検査（平成 16 年 12 月）では HBs 抗原検査陰性、輸血後の平成 17 年 4 月 6 日でも HBs 抗原検査陰性であったが、退院時の平成 17 年 4 月 21 日に HBs 抗原検査陽性が確認された。

その後、平成 17 年 6 月 13 日に発熱、全身倦怠感等出現し、肝機能値が高値を示し、6 月 16 日再入院、6 月 20 日には、HBs 抗体、HBc 抗体、HBe 抗原、HBe 抗体のいずれも陽性が確認された。また、同日の HBc の IgM 抗体も陽性であり、劇症肝炎と診断される。

患者は、7 月 3 日に B 型劇症肝炎にて死亡した。

患者の検体の HBV の解析結果は、ジェノタイプ C、サブタイプ a d r であり、CP/Pre Core 領域の塩基配列の解析から PreC 部位には変異はなく、CP（Core Promoter）部位に変異がある CP 変異、PreC 野生株であった。

3 状況

（1）輸血された血液製剤について

- ① 当該患者には 20 人の供血者から採血された赤血球濃厚液等を輸血。
- ② 20 人の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿は 17 本のうち 10 本が確保、新鮮凍結血漿 6 本のうち 3 本は確保済み。15 本の赤血球濃厚液はすべて医療機関へ供給済み。医療機関への情報提供は実施済み。

（2）20 人の供血者について

供血者 20 人のうち、15 人が再採血・献血に来場（HBV 関連検査は陰性）。（平成 20 年 10 月 9 日現在、残る 5 名の来訪なし。）

（3）供血者個別 NAT の試験結果

輸血時の供血者 20 人の供血時の保管検体について、個別 NAT を実施したところ、すべて陰性であった。

4 今後の対応

（1）供血者 5 人の再献血・検査に係るフォローを行う（再採血の依頼中）。

（2）血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われた 事例（4月7日報告）について

1. 経緯

平成18年4月7日、日本赤十字社から輸血（濃厚血小板、赤血球濃厚液）によるHBV感染疑いの症例の報告があったとの報告が、日本赤十字社からあった。

2. 事例

患者は、40代の男性で、原疾患は血液腫瘍。平成16年7月から平成17年2月に（濃厚血小板計30単位、赤血球濃厚液計48単位）、平成17年3月から5月に輸血（濃厚血小板計130単位、赤血球濃厚液計18単位）を受ける。

最初の輸血から8ヶ月後の平成17年2月22日にはHBs抗原、HBs抗体、HBc抗体全て陰性だったが、平成18年3月に肝不全となり、4月3日にHBs抗原、HBc抗体についても陽転が確認された。輸血後の平成17年5月23日の保管検体において、HBV-NATは陰性であったが、6月8日の保管検体において、HBV-NATは陽性であった。なお、HCV抗体は輸血前から陽性であった。

その後主治医は、亜急性劇症肝炎と診断。（4月7日 ALT67IU/mL, T-Bil3.57mg/dL, PT-INR2.30）患者は5月19日に肝不全により死亡。

3. 感染についての状況

(1) 輸血された血液製剤について

- ① 当該患者に投与された血液製剤の供血者数は31人（H16年7月～H17年2月）及び22人（H17年3月～5月）

※被疑製剤の対象をH16年7月まで拡大して調査

- ② 当該供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿51本のうち44本使用済みで7本確保済み。新鮮凍結血漿14本はすべて医療機関へ供給済み。

(2) 供血者個別 NAT

供血者個別 NAT は53人分全て陰性。

(3) 供血者に関する情報

- ① 供血者31人のうち、22人が献血又は事後採血に再来し、21人はHBV関連検査陰性。1名はHBs抗体のみ陽性（平成20年10月9日現在、残る9名の来訪なし）。
- ② 供血者22人のうち、22人すべてが献血又は事後採血に再来し、20人はHBV関連検査陰性。2名はHBc抗体及びHBs抗体陽性。

(4) その他

平成17年4月8日、骨髄バンクからの同種骨髄移植を施行。ドナーはHBsAg(-)、HBsAb(-)、HBcAb(-)であった。

4. 今後の対応

- (1) 供血者9人の再献血・検査に係るフォローを行う
- (2) 「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤で HBV（B 型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 （6 月 5 日報告）について

1 経緯

平成 18 年 6 月 5 日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液及び新鮮凍結血漿）による HBV 感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

80 歳代の男性。原疾患は消化器疾患。平成 17 年 10 月 22 日から 11 月 29 日までの間に赤血球濃厚液合計 18 単位、新鮮凍結血漿合計 36 単位を受ける。

輸血前の血液検査（平成 17 年 8 月 31 日）では HBs 抗原検査陰性、AST 16 及び ALT 12 であった。輸血後の平成 18 年 5 月 2 日に、AST、ALT の上昇がみられ、同月 19 日に HBs 抗原検査陽性であり、AST 683、ALT 693 であった。同患者については、上記の他、次の検体が医療機関に保管されており、それらを検査した結果は次のとおりであった。

輸血前 H17.10.22 HBV-DNA 陰性

輸血後 H17.11.13 HBs 抗原陰性、HBs 抗体陰性、HBc 抗体陰性

輸血後 H17.11.24 HBs 抗原陰性、HBs 抗体 EIA 法陽性／PHA 法陰性、HBc 抗体陰性

輸血後 H17.11.27 HBV-DNA 陰性

輸血後 H18.06.02 HBs 抗原陽性、HBs 抗体陰性、HBc 抗体陽性、HBV-DNA 陽性

その後、平成 18 年 6 月 12 日に死亡。急性肝炎から劇症肝炎に至り、肝不全による死亡と考えるとの担当医の見解である。

3 状況

（1）輸血された血液製剤について

① 当該患者には 29 人の供血者から採血された赤血球濃厚液等を輸血。

② 29 人の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿は 27 本のうち 11 本が確保、16 本が使用済み。新鮮凍結血漿 8 本のうち 6 本は確保済み、2 本は医療機関へ供給済み。18 本の赤血球濃厚液はすべて医療機関へ供給済み。

（2）29 人の供血者について

供血者 29 人のうち、27 人が再採血・献血に来場（27 名の HBV-DNA は全て陰性、そのうち 2 名は HBs 抗体及び HBc 抗体陽性、1 名は HBs 抗体のみ陽性、残る 24 名は HBV 関連検査陰性）。（平成 20 年 10 月 9 日現在、残る 2 名の来訪なし。）

（3）供血者個別 NAT の試験結果

輸血時の供血者 29 人の供血時の保管検体について、個別 NAT を実施したところ、すべて陰性であった。

4 今後の対応

（1）供血者 2 人の再献血・検査に係るフォローを行う（再採血の依頼中）。

（2）血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤で HBV（B 型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 （2 月 2 0 日報告）について

1 経緯

平成 1 9 年 2 月 2 0 日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液）による HBV 感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

6 0 歳代の男性。原疾患は消化器腫瘍。平成 1 8 年 8 月 3 日に、輸血（赤血球濃厚液合計 4 単位 3 本）を受ける。

輸血前の血液検査（平成 1 8 年 7 月 1 1 日）では HBs 抗原検査陰性であったが、輸血後の平成 1 8 年 9 月 2 6 日に、HBs 抗原検査陽性となった。1 0 月 2 4 日の悪心、嘔吐、腹痛にて受診、AST 1 3 6 4、ALT 1 3 0 6、肝不全を認める。1 0 月 2 5 日に多臓器不全により死亡。感染経路が不明であるが、輸血による HBV の感染が否定できないとの担当医の見解である。

3 状況

（1）輸血された血液製剤について

①当該患者には 3 人の供血者から採血された赤血球濃厚液を輸血。

②当該製剤と同一供血者から製造された 3 本の原料血漿は全て確保済み。

（2）3 人の供血者について

3 人の供血者のうち、2 名が再採血・献血に来場（2 名の HBV 関連検査は全て陰性）。（平成 2 0 年 1 0 月 9 日現在、残る 1 名の来訪なし。）

（3）供血者個別 NAT の試験結果

輸血時の供血者 3 人の供血時の保管検体について、個別 NAT を実施したところ、全て陰性であった。

4 今後の対応

（1）供血者 1 人の再献血・検査にかかるフォローを行う。

（2）血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 （1月23日報告）について

1 経緯

平成20年1月23日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液、血小板濃厚液）によるHBV感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

60歳代の男性。原疾患は骨髄異形成症候群。平成19年7月12日から平成19年12月20日にかけて、輸血（赤血球濃厚液合計42単位（2単位21本）、血小板濃厚液合計160単位（10単位16本））を受ける。

輸血前の血液検査（平成19年7月11日）ではHBs抗原検査陰性、HBs抗体検査陰性、HBc抗体検査陰性であったが、輸血後の平成20年1月8日に、HBs抗原検査陽性、HBV-DNA検査陽性となった。原疾患で入院中に輸血を受け、平成19年12月8日に退院。その後、平成20年1月8日に倦怠感、発熱により再度入院、AST3368、ALT2843。1月10日にはAST7674、ALT5030まで上昇、翌日急性B型肝炎にて死亡。輸血と死亡との関連性ありとの担当医の見解である。

3 状況

（1）輸血された血液製剤について

①当該患者には37人の供血者から採血された赤血球濃厚液及び血小板濃厚液を輸血。

②当該製剤と同一供血者から製造された26本の原料血漿、11本の新鮮凍結血漿は全て確保済み。

（2）37人の供血者について

37人の供血者のうち、当該患者のHBV-DNAが陽転化する前（平成19年7月12日から10月31日）に輸血に使用された血液の供血者は24名であり、24名全員が献血に再来又は再採血に協力いただいた（HBV-DNAは全て陰性。1名はHBc抗体及びHBs抗体陽性、2名はHBs抗体のみ陽性であった）。

（3）供血者個別NATの試験結果

輸血時の供血者37人の供血時の保管検体について、個別NATを実施したところ、全て陰性であった。

4 今後の対応

（1）血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 （2月8日報告）について

1 経緯

平成20年2月8日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液、血小板濃厚液）によるHBV感染の疑い事例の報告があり、その後3月17日に、患者が死亡したとの報告があった。

2 事例

80歳代の男性。原疾患は急性骨髄性白血病。平成19年6月28日から平成20年2月3日にかけて、輸血（赤血球濃厚液合計78単位（2単位39本）、血小板濃厚液合計670単位（10単位67本））を受ける。

輸血前の血液検査（平成19年6月15日）ではHBs抗原検査陰性、HBc抗体陰性であったが、輸血後の平成20年2月4日に、HBs抗原検査陽性、HBe抗原検査陽性、HBs抗体検査陰性、HBc抗体検査陽性、HBV-DNA検査陽性となった。輸血後の平成20年2月6日にAST221、ALT106となり、3月12日、急性B型肝炎にて死亡。輸血と死亡との関連性ありとの担当医の見解である。

3 状況

（1）輸血された血液製剤について

①当該患者には106人の供血者から採血された赤血球濃厚液及び血小板濃厚液を輸血。

②当該製剤と同一供血者から製造された95本の原料血漿のうち、93本確保済み（2本使用済み）、11本の新鮮凍結血漿は全て確保済み。

（2）106人の供血者について

106人の供血者のうち、当該患者のHBs抗原が陽転化する前（平成19年6月28日から11月28日）に輸血に使用された血液の供血者は56名であり、そのうち55名が献血に再来又は再採血に協力いただいた（55名のHBV-DNAは全て陰性。1名はEIA法でHBs抗原及びHBc抗体陽性、1名はHBs抗体及びHBc抗体陽性、1名はHBs抗体のみ陽性、その他の者は全て陰性）。（平成20年10月9日現在、残る1名の来訪なし。）

（3）供血者個別NATの試験結果

輸血時の供血者106人の供血時の保管検体について、個別NATを実施したところ、全て陰性であった。

4 今後の対応

（1）平成19年6月28日から11月28日輸血の56人の供血者のうち、残る供血者1名の再献血・検査にかかるフォローを行う。

（2）血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 （5月14日報告）について

1 経緯

平成20年5月14日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液）によるHBV感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

60歳代の女性。原疾患は頸動脈狭窄。平成20年1月17日から18日にかけて、輸血（赤血球濃厚液合計3単位（2単位1本、1単位1本））を受ける。

輸血前の血液検査ではHBs抗原検査陰性（平成19年11月12日）、HBs抗体検査陰性かつHBc抗体陰性（平成20年1月17日）であったが、輸血後の平成20年4月21日に、HBV-DNA陽性、HBs抗原検査陽性、HBe抗原検査陽性、HBc抗体検査陽性、IgM-HBc抗体陽性となった。同日、AST14，610、ALT7，700となり、3日後の4月24日、B型劇症肝炎にて死亡。輸血血液と感染症との因果関係ありとの担当医の見解である。

3 状況

（1）輸血された血液製剤について

- ①当該患者には2人の供血者から採血された赤血球濃厚液を輸血。
- ②当該製剤と同一供血者から製造された2本の新鮮凍結血漿は全て確保済み。

（2）2人の供血者について

平成20年10月9日現在、2人の供血者のうち、再来された方はいない。

（3）供血者個別NATの試験結果

輸血時の供血者2人の供血時の保管検体について個別NATを実施したところ、1本HBV-DNA（-）、1本HBV-DNA（+）であった。

（4）遺伝子の相同性の比較

患者検体と献血者検体（HBV陽性保管検体）とでPreS/S領域を含むP領域前半部の1550bpの塩基配列を比較したところ、献血者検体で4箇所塩基の混在があり、混在箇所では患者検体でそのうちの1塩基が存在していた。その他の箇所は全て一致した。献血者と患者のHBVはGenotype Bで塩基配列からSubtypeはadwと推定した。

4 今後の対応

（1）血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 （9月18日報告）について

1 経緯

平成20年9月18日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液）によるHBV感染の疑い事例で重篤な合併症を発症した症例の報告があった。

2 事例

60歳代の女性。原疾患は結腸癌。平成20年6月14日、輸血（赤血球濃厚液合計4単位（2単位2本））を受ける。

輸血前の血液検査ではHBs抗原検査陰性（平成20年6月14日）、HBs抗体検査陰性かつHBc抗体陰性であったが、輸血後の平成20年9月16日に、HBs抗原検査陽性、HBs抗体検査陰性、HBe抗原検査陽性、HBe抗体検査陽性となった。同日、AST4198、ALT5362となり、現段階において未回復である。輸血血液と感染症との因果関係ありとの担当医の見解である。

3 状況

（1）輸血された血液製剤について

①当該患者には2人の供血者から採血された赤血球濃厚液を輸血。

②当該製剤と同一供血者から製造された2本の新鮮凍結血漿-LRは全て確保済み。

（2）2人の供血者について

2人の供血者のうち、再来された方はいない。

（3）供血者個別NATの試験結果

輸血時の供血者2人の供血時の保管検体について個別NATを実施したところ、1本はHBV-DNA（-）、他方はHBV-DNA（+）であった。

（4）遺伝子の相同性の比較

患者検体と献血者検体（HBV陽性保管検体）とでPreS/S領域を含むP領域前半部の1550bpの塩基配列を比較したところ、献血者検体で1箇所塩基の混在があり、混在箇所では患者検体でそのうちの1塩基が存在していた。その他の箇所は全て一致した。献血者と患者のHBVはGenotype Cで塩基配列からSubtypeはadrと推定した。

4 今後の対応

（1）血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤でC型肝炎が疑われた事例 (2月15報告)について

1 経緯等

平成18年2月15日、日本赤十字社から輸血(赤血球濃厚液)によるHCV感染の疑いの症例の報告があった。その後、当該症例の死亡が確認され、日本赤十字社から3月8日に追加報告があったものである。

2 事例

70歳代の男性。原疾患は血液腫瘍。平成17年8月13日から平成18年1月30日までの間に、輸血(濃厚血小板液10単位47本、赤血球濃厚液2単位21本、新鮮凍結血漿5単位7本、同2単位4本、同1単位2本)を実施。患者は、2月19日に急性循環不全により死亡。患者の輸血前(8月12日)のHCV抗体検査は陰性であったが、本年1月30日にHCVコア抗原の陽性が確認され、2月14日のAST/ALTは67/192であった。

3 状況

(1) 輸血された輸血用製剤について

- ・ 当該患者には、81人の供血者から採血された赤血球製剤、血小板製剤及び新鮮凍結血漿を輸血。
- ・ 当該製剤と同一供血者から製造された70本の原料血漿のうち67本は確保・廃棄済み(3本は使用済み)。新鮮凍結血漿は、14本製造で11本確保済み(3本は医療機関供給済み)。赤血球製剤6本は医療機関供給済み。

(2) 検体検査の状況

- ・ 保管検体81本のHCV個別NATはすべて陰性。
- ・ 供血者81人中78人が献血に再来又は再採血し、HCV関連検査は陰性であった(平成20年10月9日現在、残る3人のその後の来訪なし)。

(3) 患者検体の調査

- ・ 輸血後の検体でHCV-RNA陽性が確認された。

(4) 担当医の見解

- ・ C型肝炎が死期を早めたと思われるが、輸血がC型肝炎の原因であるとの証明はされていないとのこと。

(5) 併用薬等

- ・ 当該患者は、輸血と同時期に乾燥アンチトロンビン、乾燥スルホ化グロブリン、人血清アルブミンを併用していた。

4 今後の対応

- (1) 今後、遡及調査ガイドラインの徹底を進める。
- (2) 再来していない供血者3人のフォローアップを引き続き行う。

輸血用血液製剤で細菌感染が疑われた事例 (7月2日報告)について

1 経緯

平成20年7月2日、日本赤十字社から輸血（血小板濃厚液）による細菌感染の疑い事例で重篤な合併症を発症した症例の報告があった。

2 事例

60歳代の女性。原疾患は再発乳癌。平成20年6月30日に、輸血（血小板濃厚液（10単位1本））を受ける。同日投与開始約1時間後に発熱、悪寒、戦慄があり、直ちに輸血を中止した。その後、重篤な症状を呈するも8月8日時点で軽快、退院されたことを確認している。院内にて実施の患者血液培養及び当該血小板製剤より *Staphylococcus aureus* を同定した。

3 状況

(1) 輸血された血液製剤について

当該患者には1人の供血者から採血された血小板濃厚液を輸血。当該製剤と同一供血者から製造された1本の原料血漿は確保済み。

(2) 検体検査の状況

投与中止した当該製剤（1本）及び保管検体（1本）に対して細菌培養試験を実施したところ、当該製剤より *Staphylococcus aureus* が検出された。同一採血番号の原料血漿（1本）に対して行った無菌試験結果は適合。

(3) 菌株の相同性の比較

医療機関において検出された2菌株（患者から検出された菌株及び当該製剤より検出された菌株）と日本赤十字社が当該製剤から検出した菌株の計3菌株について以下の試験を行ったところ、全てMSSAであり同一の菌株であることを確認した。

- ・ 細菌培養試験（同定）試験
- ・ 薬剤感受性試験
- ・ コアグララーゼ型（Ⅱ型）
- ・ 毒素産生試験（－）
- ・ パルスフィールド電気泳動法による遺伝子解析

(4) 担当医の見解

上記調査結果を受けて、担当医より「感染症と輸血血液との因果関係ありと考える」とのコメントあり。

4 今後の対応

今後、遡及調査ガイドラインの徹底や細菌を除去・不活化する方策の検討を進める。

輸血用血液製剤で細菌感染が疑われた事例 (8月25日報告)について

1 経緯

平成20年8月21日、日本赤十字社から輸血（血小板濃厚液）による細菌感染の疑い事例で重篤な合併症を発症した症例の報告があった。

2 事例

50歳代の男性。原疾患はバーキットリンパ腫（寛解期）、二次性急性骨髄性白血病。平成20年8月21日、輸血（血小板濃厚液10単位（1本））を受ける。輸血開始40分後、血管痛および血小板製剤の凝集を認めたため輸血を中止。その後、血圧71/39と著明な低下及び胸痛症状に対してステロイド等の処置により1時間後には一旦、血圧改善するもその後、悪寒・戦慄及び体温37.9℃を認めたため、ステロイドパルス療法施行したが、体温は40.6度まで上昇し、収縮期血圧は64まで低下した。その後、治療に反応し、8月22日時点で軽快傾向を確認している。輸血後に院内で実施した患者血液培養検査より *β-Streptococcus group G* (G群溶連菌) を同定した。

3 状況

(1) 輸血された血液製剤について

当該患者には1人の供血者から採血された血小板濃厚液を輸血。当該製剤と同一供血者から製造された1本の原料血漿は確保済み。

(2) 検体検査の状況

投与中止した当該製剤及び保管検体（1本）に対して細菌培養試験を実施したところ、当該製剤より *Streptococcus dysgalactiae ssp equisimilis* (G群レンサ球菌) が検出された。同一採血番号の原料血漿（1本）に対して行った無菌試験結果は適合。

(3) 患者検体の調査

非溶血性副作用関連検査、抗血漿タンパク質抗体検査結果は陰性。

(4) 菌株の相同性の比較

医療機関において検出された菌株（患者）及び当該製剤より同定された菌株の計2つの菌株について遺伝子型別試験を行ったところ、二者が同一の菌株であることを確認した。

(5) 担当医の見解

上記調査結果を受けて、担当医より「感染症と輸血血液との因果関係ありと考える」とのコメントあり。

4 今後の対応

今後、遡及調査ガイドラインの徹底や細菌を除去・不活化する方策の検討を進める。

平成20年度感染症報告事例のまとめ（前回報告分以降）について

1 平成20年7月1日報告分から20年10月1日までに報告（新規及び追加）があった感染症報告（疑い事例を含む。供血者からの情報により開始した遡及調査によるものを除く。）は、輸血用血液製剤53件である。

輸血用血液製剤の内訳は、
 (1) B型肝炎報告事例： 23
 (2) C型肝炎報告事例： 12
 (3) HIV感染症報告事例： 1
 (4) その他の感染症報告事例： 17

2 B型肝炎報告事例

- (1) 輸血前後に感染検査でHBs抗原（又はHBV-DNA）等が陽転した事例は15例（うち、輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性は0例）。
- (2) 血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性の事例は2例。
- (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は1例（劇症化例を含む。）である。

3 C型肝炎報告事例

- (1) 輸血前後に抗体検査（又はHCV-RNA）等が陽転した事例は8例（うち、輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性は0例）。
- (2) 使用した血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性事例は0例。
- (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。

4 HIV報告事例

- (1) 輸血後に抗体検査等が陽転した事例は1例。
- (2) 使用した血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性事例は0例。
- (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。

5 その他感染症報告事例

- (1) 細菌等感染症報告事例において、血液製剤を提供した献血者の保管検体の無菌試験陽性事例は0例である。
- 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。

※今回新規の個票として取り上げた症例にはカラムに黄色を付した。また、事前送付からの修正点・更新点は赤字で記載した。

識別番号	FAX受付日	報告受理日	一般名	患者性別	年代	原疾患(箇所名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	併用血	備考	使用単数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発掘及供血者保管検体(抗原、抗体、NAT) (疫与時点)	供血者発掘及供血者保管検体(抗原、抗体、NAT) (疫与時点)		
輸血によるHBV感染報告例(疑い例を含む。)																											
供血者陽性事例																											
3-0811700724	2008/9/18	2008/10/1	人赤血球濃厚液-LR	女	60	消化器腫瘍	B型肝炎	08/06	HBsAg(-) HBsAb(-) HBeAg(-) HBeAb(-) HBcAb(-) (08/06)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBeAg(+) HBeAb(+) HBcAb(+) (08/08)	-	HBV-DNA(+) (08/08)	陽性(輸血後)	保管検体 1本HBV-DNA(-)、 1本HBV-DNA(+)			陽性となった当該輸血用血液と同一採血番号の製剤として1本の新鮮凍結血漿-LRが有り、確保済み。	4単位	0/2		2本の新鮮凍結血漿-LRを製造。新鮮凍結血漿-LRは全て確保済み。	-		重篤	未回復		患者検体と献血者検体(HBV陽性保管検体)とでPreS/S領域を含むP領域の前半部の1550bpの塩基配列を比較したところ、献血者検体で1箇所塩基の混在があり、混在箇所では患者検体でそのうちの1塩基が存在していた。その他の箇所はすべて一致した。献血者と患者のHBVはGenotype Cで塩基配列からSubtype1と推定した。

日赤番号	識別番号	報告受領日	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年代	原疾患(簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発症及び供血者保管検体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)	供血者発症及び供血者保管検体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)	
3-08102	A-0800625	2008/8/25	2008/8/25	2008/9/8	人血小坂濃厚液(放射線照射) 人血小坂濃厚液 人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	10	血液腫瘍	B型肝炎	08/05-08/07 08/06-08/07 08/05-08/07	HBsAg(+) (08/08) HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBcAb(-) HBsAg(-) HBcAb(-) HBM-HBcAb(-) (08/08) HBsAg(+) (08/08) HBsAg(+) HBsAg(-) HBsAg(-) HBcAb(-) (08/08)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/08)	当該08年5月21日HBV-DNA(-) (調及調査対象) 次回08年6月17日HBsAg(+)(陽転献血) 保管検体についてHBV-DNA(+)	本症例は「血液製剤の調及調査」について(平成17年3月10日付け養食発第0310009)に基づき症例報告、担当医は同時期に輸血された輸血血液14本についても被疑薬と報告。 当該08年5月21日HBV関連検査陰性(調及調査対象)保管検体(個別NAT)についてHBV-DNA陰性 次回08年6月17日HBs抗原検査陰性(陽転献血)保管検体(個別NAT)HBV-DNA陰性	60単位 40単位 10単位	4/14(HBV関連検査陰性)	同一供血者製剤は確保済み。 調及調査対象となった輸血血液について、1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。 同時期に輸血された14本について、12本の原料血漿、2本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は確保済み。新鮮凍結血漿-LRは全て確保済み。	-	非重篤 未回復	未回復	患者検体と献血者検体(時のHBV陽性保管検体)としてPreS/S領域を含むP領域の155bpの塩基配列を比較したところ、両者の塩基配列はすべて一致した。献血者と患者のHBVはGenotype Aで塩基配列からSubtypeはadwと推定した。	患者検体と献血者検体の場合の検査値					
陽転事例																											
3-08084	A-0800434	2008/7/17	2008/7/28	2008/8/12	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	60	腎・泌尿器系疾患	B型肝炎	07/11-07/12	HBsAg(+) (08/04) HBsAg(-) HBsAg(+) (08/05) HBsAg(-) HBcAb(+) HBcAb(+) (07/12) HBV-DNA(-) (08/05)	-	保管検体5本全部HBV-DNA(-)	-	HBsAg(+) (08/04) HBsAg(-) HBsAg(+) (08/05) HBsAg(-) HBcAb(+) HBcAb(+) (07/12) HBV-DNA(-) (08/05)	8単位	1/5(HBV関連検査陰性)	5本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	-	非重篤 未回復	未回復	患者検体と献血者検体の場合の検査値					
3-08089	A-0800511	2008/7/29	2008/8/12	2008/8/12	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR 人血小坂濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射) 新鮮凍結人血小坂濃厚液(放射線照射)	女	70	循環器疾患	B型肝炎	07/11-07/12 07/11-07/12 07/12 07/12	HBsAg(-) HBcAb(-) (07/12) HBsAg(-) HBsAg(-) HBcAb(-) (07/12) HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBcAb(+) (08/07)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAg(-) HBcAb(-) (07/12) HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBcAb(+) (08/07)	保管検体22本全部HBV-DNA(-)	原料血漿は全て使用済み。新鮮凍結血漿-LR、赤血球濃厚液-LRはすべて医療機関へ供給済み。	8本の原料血漿、8本の新鮮凍結血漿-LR、赤血球濃厚液-LRを製造。	12単位 10単位 16単位 40単位	9/22(HBV関連検査陰性)	8本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	原料血漿は全て使用済み。新鮮凍結血漿-LR、赤血球濃厚液-LRはすべて医療機関へ供給済み。	死亡(死因等については調査中)	死亡(死因等については調査中)	患者検体と献血者検体の場合の検査値					

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受理日	一般名	患者性別	患者年代	原疾患(簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血症況	同一供血症況	同一供血症況	同一供血症況	感染等転帰	転帰	供血症況(投与時点)	供血症況(場合の供血症況)
3-08073	A-08000407	2008/7/8	2008/7/18	新鮮凍結人血漿-LR 濃厚液放射線照射)-LR	男	60	消化器腫瘍	B型肝炎	08/01	HBsAg(-) (07/12)	HBV-DNA(+) (08/04)	HBV-DNA(-) (08/01)	HBV-DNA(+) (08/04)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	12本全部 HBV-DNA(-)			18単位 6単位	7/12(6人はHBV関連検査陰性、1人はHBc抗体陽性かつHBs抗体陽性であり、当該献血時においても同様)	3本の原料血漿、9本の赤血球濃厚液-LRを製造。原料血漿は全て確保済み。	赤血球濃厚液-LRはすべて医療機関へ供給済み。	重篤	回復			
3-08080	A-08000430	2008/7/15	2008/7/28	新鮮凍結人血漿-LR 濃厚液放射線照射)-LR	女	70	循環器疾患	B型肝炎	08/02	HBsAg(-) (08/02)	HBV-DNA(+) (08/06)	HBV-DNA(-) (08/02)	HBV-DNA(+) (08/07)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	8本全部 HBV-DNA(-)	人血清アルブミン		6単位 20単位 6単位	4/8(HBV関連検査陰性)	5本の原料血漿、3本の赤血球濃厚液-LRを製造。原料血漿は全て確保済み。	新鮮凍結血漿は全て医療機関へ供給済み。	非重篤	軽快			
3-08086	A-08000462	2008/7/24	2008/8/5	新鮮凍結人血漿-LR 濃厚液放射線照射)-LR	男	70	消化器腫瘍	B型肝炎	02/03	HBsAg(-) (02/03)	HBV-DNA(+) (08/07)	-	-	-	4本全部 HBV-DNA(-)			4単位 4単位	4/4(HBV関連検査陰性)	4本の原料血漿、2本の赤血球MAPを製造。	原料血漿は全て使用済み。赤血球MAPは全て医療機関へ供給済み。	非重篤	未回復			
3-08087	A-08000463	2008/7/24	2008/8/5	人血小坂濃厚液放射線照射)-LR	女	70	肝・胆膵腫瘍	B型肝炎	08/04	HBsAg(-) (08/03)	HBV-DNA(+) (08/07)	HBV-DNA(-) (08/04)	HBV-DNA(-) (08/04)	陰性(輸血前)	1本についで(全部) HBV-DNA(-)			10単位	1/1(HBV関連検査陰性)	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	-	非重篤	未回復			
3-08094	A-08000516	2008/8/6	2008/8/19	人血小坂濃厚液放射線照射)-LR	男	70	呼吸器腫瘍 消化器腫瘍	B型肝炎	08/03	HBsAg(-) (08/03)	HBV-DNA(+) (08/07)	-	-	-	5本全部 HBV-DNA(-)			10単位	0/5	5本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	-	重篤	軽快			
3-08095	A-08000517	2008/8/8	2008/8/19	人血小坂濃厚液放射線照射)-LR	男	70	その他疾患、糖尿病	B型肝炎	06/12	HBsAg(-) (06/10)	HBV-DNA(+) (08/08)	HBV-DNA(-) (06/10)	HBV-DNA(+) (08/08)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	2本全部 HBV-DNA(-)			4単位	2/2(HBV関連検査陰性)	2本の原料血漿を製造。	原料血漿はすべて使用済み。	重篤	未回復			

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受理日	一般名	患者性別	年代	原疾患(箇所名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発病及供血者保管検体(抗原、NAT) (採与時点)	供血者発病及供血者保管検体(抗原、NAT) (採与時点)			
3-08096	A-08000541	2008/8/13	2008/8/27	人血小板濃厚液(照射) 人赤血球濃厚液-LR 照射) 人赤血球濃厚液(照射) 照射)-LR	男	50	血液腫瘍	白血病	07/10-08/06 07/12-08/06 07/12-08/02	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBeAg(-) HBeAb(+) (03/12) HBsAg(-) HBsAb(+) HBeAg(-) HBeAb(+) (04/01) HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBeAg(-) HBeAb(+) (08/06) HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBeAg(+) HBeAb(+) (08/06) HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBeAg(+) HBeAb(+) (08/06) HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBeAg(+) HBeAb(+) (08/07) HBsAg(+) HBsAb(-) HBeAg(-) HBeAb(+) (08/08) HBsAg(+) HBsAb(-) HBeAg(-) HBeAb(+) (04/10)	-	-	-	-	保管検体 39本全部 HBV-DNA(-)	保管検体 10本全部 HBV-DNA(-)	乾燥濃縮人アソチロンビロン3加熱人血漿たん白		260単位 20単位 8単位	28/39(HBV関連検査陰性)	39本の原料血漿を製造。原料血漿は32本確保済み。	原料血漿は7本使用済み。	重篤	未回復				
3-08097	A-08000567	2008/8/18	2008/9/1	人赤血球濃厚液(照射)-LR 新鮮凍結人血漿	女	30	産科	B型肝炎	08/04	HBsAg(-) HBsAb(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBeAb(-) (08/04)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBeAb(-) (08/08)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBeAb(-) (08/08)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBeAb(-) (08/08)	陽性(輸血後)	保管検体 10本全部 HBV-DNA(-)	乾燥濃縮人アソチロンビロン3加熱人血漿たん白		12単位 10単位	3/10(HBV関連検査陰性)	5本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿、新鮮凍結血漿-LRは全て確保済み。		重篤	未回復					
3-08105	A-08000555	2008/8/28	2008/9/10	人血小板濃厚液	女	50	腎・泌尿器系疾患 血液腫瘍	白血病	07/12-08/02	HBsAg(-) HBsAb(+) (07/06) HBsAg(-) HBsAb(+) (07/07) HBsAg(+) HBsAb(+) HBeAb(+) HBeAg(-) HBeAb(+) (07/10)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBeAb(+) HBeAg(+) HBeAb(+) (08/08)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBeAb(+) HBeAg(+) HBeAb(+) (08/08)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBeAb(+) HBeAg(+) HBeAb(+) (08/08)	陽性(輸血後)	保管検体 12本全部 HBV-DNA(-)		20単位	1/2(HBV関連検査陰性)	2本の原料血漿を製造。原料血漿は1本確保済み。	原料血漿は1本使用済み。	非重篤	未回復						

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受付日	一般名	患者性別	年代	原疾患(溜路名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発病及の場合約供血者保管抗体(抗原、抗体、NAT) (疫与時点)	供血者発病及の場合約供血者の検査値
3-08106	A-08000656	2008/8/29	2008/9/10	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR 新鮮凍結血漿-LR 人血小小板濃厚液(放射線照射)	男	50	循環器疾患	B型肝炎	07/12 07/12 07/12	HBsAg(-) (07/11)	HBsAg(+) (08/05) HBsAg(+) (08/08) HBsAg(-) (08/08) HBsAg(+) (08/08) IgM-HBcAb(-) (08/08)	HBV-DNA(-) (07/12)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/08)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/05)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/03)	4/9(HBV関連検査陰性)	6本の原料血漿、3本の赤血球濃厚液-LRを製造。原料血漿は1本確保済み。	原料血漿は5本使用済み。赤血球濃厚液-LRは全て医療機関へ供給済み。	非重篤	軽快			
3-08112	A-08000719	2008/9/10	2008/9/22	人血小小板濃厚液(放射線照射) 白血球除去人赤血球浮遊液	男	50	血液腫瘍	B型肝炎	06/03-07/06/07	HBV-DNA(-) HBsAg(+) (08/08)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) (08/08)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (07/01)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/05)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/05)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/06)	6/6(5人はHBV関連検査陰性、1人はHBs抗体陽性かつHBs抗体陽性であり、当該献血時においても同様であった。)	6本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿を製造。	原料血漿は全て使用済み。新鮮凍結血漿は医療機関へ供給済み。	非重篤	未回復			
輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性																									
3-08069	A-08000404	2008/7/1	2008/7/14	人赤血球濃厚液(放射線照射) 新鮮凍結人血漿 人血小小板濃厚液(放射線照射)	女	40	生殖器腫瘍	B型肝炎	07/01 07/01 07/01	HBsAg(-) (07/01) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (07/01)	HBsAg(+) (07/04) HBsAg(+) (07/07) HBsAg(+) (07/10) HBsAg(+) (08/05)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAg(-) HBcAb(-) (07/01)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/05)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/05)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/03)	30/54(HBV関連検査陰性)	54本の原料血漿、20本の赤血球MAPを製造。	原料血漿はすべて使用済み。赤血球MAPは全て医療機関へ供給済み。	非重篤	不明			
3-08075	A-08000409	2008/7/9	2008/7/18	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	70	その他の腫瘍	B型肝炎	08/03-08/05	HBsAg(-) (05/10) HBsAg(-) (08/05) HBsAg(+) (08/03)	HBsAg(-) (08/06)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/03)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/05)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/05)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/06)	0/4	2本の原料血漿、2本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は全て確保済み。新鮮凍結血漿-LRは確保済み。	-	重篤	未回復			

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受理日	一般名	患者性別	患者年代	原疾患(簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発病及供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)査値(採与時点)	供血者発病及供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)査値	
3-08078	A-08000413	2008/7/9	2008/7/22	人血小坂濃厚液(放射線照射)	女	50	血液腫瘍	B型肝炎	08/03-06	HBsAg(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBsAg(-) HBeAg(-) HBeAb(-) HBcAb(-) (08/03)	HBV-DNA(-) (08/06)	HBV-DNA(-) (08/05) HBV-DNA(-) (08/07)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBV-DNA(-) (08/07)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBV-DNA(-) (08/07)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBV-DNA(-) (08/07)	乾燥ポリエチレン、リコー、処理、人免疫グロブリン	被験薬1本で第一報を入力し、FAX報告を行ったが、その後医療機関からの申し出により被験薬3本追加。	165単位	7/16(HBV関連検査陰性)	16本の原料血漿を製造。原料血漿は全て確保済み。	-	非重篤	調査中		
3-08081	A-08000431	2008/7/15	2008/7/28	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR 人赤血球濃厚液-LR	男	50	血液腫瘍	B型肝炎	08/01-02 08/03	HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBsAb(-) HBV-DNA(+) HBsAg(+) IgM-HBcAb(-) (08/07)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) (08/07)	HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBsAb(-) HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) (08/07)	HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBsAb(-) HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) (08/07)	HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBsAb(-) HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) (08/07)	HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBsAb(-) HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) (08/07)		0/4	2本の原料血漿、2本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿、新鮮凍結血漿-LRは全て確保済み。	-	非重篤	未回復				
3-08101	A-08000596	2008/8/22	2008/9/3	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	60	肝・胆・膵疾患 血液腫瘍 血液疾患	B型肝炎	08/03-05	HBV-DNA ポジティブ(+) HBsAg(+) HBeAg(-) HBeAb(+) (08/03)	HBV-DNA ポジティブ(+) HBsAg(+) HBeAg(-) HBeAb(+) (08/03)	HBV-DNA ポジティブ(+) HBsAg(+) HBeAg(-) HBeAb(+) (08/03)	HBV-DNA ポジティブ(+) HBsAg(+) HBeAg(-) HBeAb(+) (08/03)	HBV-DNA ポジティブ(+) HBsAg(+) HBeAg(-) HBeAb(+) (08/03)	リツキシマブ		10単位	1/5(HBV関連検査陰性)	2本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は全て確保済み。新鮮凍結血漿-LRは全て確保済み。	-	重篤	未回復			
3-08115	A-08000722	2008/9/16	2008/9/29	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR 新鮮凍結人血小坂濃厚液(放射線照射)	男	70	循環器疾患	B型肝炎	07/10	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBcAb(+) (07/09)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBcAb(+) (07/09)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBcAb(+) (07/09)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBcAb(+) (07/09)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBcAb(+) (07/09)	人血清アルブミン		8単位 5単位 40単位	7/7(HBV関連検査陰性)	6本の原料血漿を製造。	原料血漿は全て使用済み。	非重篤	不明			
陽転未確認事例																									

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受理日	一般名	患者性別	年代	原疾患(箇所名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発病及供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)査点(投与時点)	供血者発病及供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)査点(投与時点)	
3-0810700713	A-08000713	2008/9/3	2008/9/16	人赤血球濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液-LR 人血血小板濃厚液(放射線照射)	女	60	血液腫瘍	B型肝炎	05/08-06/03 07/11-08/08 06/01-07/12	-	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) IgM-HBcAb(+) (08/08)	調査中	HBV/関連検査実施予定	保管検体34本についてHBV-NAT実施予定			4単位 12単位 160単位	24/34	調査中	調査中	非重篤	未回復				
3-0811100718	A-08000718	2008/9/8	2008/9/22	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR 人赤血球濃厚液-LR	男	70	血液腫瘍	B型肝炎	07/10 07/10	-	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(+) HBcAb(+) (07/10) HBV-DNA(+) (07/11) HBV-DNA(+) (07/12) HBV-DNA(+) (08/03) HBV-DNA(+) (08/05) HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBsAb(+) HBcAb(-) HBcAb(+) (08/08)	-	-	保管検体2本全部HBV-DNA(-)		2単位 2単位	1/2(HBV関連検査陰性)	2本の原料血漿を製造。 2本の原料血漿をすべて使用済み。	原料血漿は全て使用済み。	非重篤	未回復					
輸血によるHCV感染報告例(疑い例を含む。)																										
供血者陽性事例																										
(該当例なし)																										
陽転事例																										
3-0807400408	A-08000408	2008/7/8	2008/7/18	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	30	外傷、整形外科的疾患	C型肝炎	08/03	HCV-RNA(-) HCV-Ab(-) (08/03)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (08/08)			陽性(輸血後)	保管検体5本全部HCV-RNA(-)		6単位	0/5	5本の原料血漿を製造。原料血漿はすべて確保済み。	-	重篤	未回復				
3-0807700412	A-08000412	2008/7/9	2008/7/22	人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	70	血液疾患、消化器腫瘍	C型肝炎	07/01	HCV-Ab(-) (06/12)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (08/07)			陽性(輸血後)	保管検体2本全部HCV-RNA(-)		2単位	0/2	2本の原料血漿を製造。	原料血漿はすべて使用済み。	非重篤	未回復				

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受理日	一般名	患者性別	年代	原疾患(簡略名)	感染症名	感染年	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	献血者再献血※	同一献血者製剤確保※	同一献血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	献血者発症及の場合約献血者保管抗体(抗原、NAT)查値	献血者発症及の場合約献血者の検査値
3-08079	A-080 004 14	2008/7/14	2008/7/23	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	90	外傷・整形外科的疾患	C型肝炎	08/03	HCV-Abs(-) HCVコアAg(-) (08/03)	HCVコアAg(+) (08/07) HCV-RNA(+) HCV-Ak(-) (08/07)	HCV-RNA(-) HCV-Abs(-) (08/03)	HCV-RNA(+) HCV-Abs(+) (08/07)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体 2本全部 HCV-RNA(-)			4単位	1/2(HCV関連検査陰性)	2本の原料血漿を製造。原料血漿は全て確保済み。	-	非重篤	未回復		
3-08088	A-080 005 10	2008/7/28	2008/8/12	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	60	消化器腫瘍	C型肝炎	07/03	HCV-Abs(-) HCVコアAg(+) (07/02)	HCV-Abs(+) (08/07) HCV-RNA(+) HCVコアAg(+) (08/07)	HCV-RNA(-) HCV-Abs(-) (07/03)	HCV-RNA(+) HCV-Abs(+) (08/07)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体 2本全部 HCV-RNA(-)		4単位	0/2	1本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。	原料血漿は使用済み。新鮮凍結血漿-LRは医療機関へ供給済み。	重篤	未回復			
3-08090	A-080 005 12	2008/7/30	2008/8/13	新鮮凍結人血漿-LR 新鮮凍結人血漿 人血小坂濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	30	産科(出血)	C型肝炎	08/05 08/05 08/05	HCV-RNA(+) HCVコアAg(+) HCV-Ak(+) (08/07)	HCV-RNA(+) HCVコアAg(+) (08/07)	-	HCV-RNA(+) HCV-Abs(+) (08/07)	陽性(輸血後)	保管検体 32本全部 HCV-RNA(-)		15単位 15単位 60単位 34単位	12/32(HCV関連検査陰性)	10本の原料血漿、10本の新鮮凍結血漿-LR、9本の赤血球濃厚液-LRはすべて医療機関へ供給済み。原料血漿はすべて確保済み。新鮮凍結血漿-LRはすべて確保済み。	赤血球濃厚液-LRは医療機関へ供給済み。	重篤	軽快			
3-08091	A-080 005 13	2008/7/30	2008/8/13	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	80	血液疾患	C型肝炎	08/03-08/06	HCV-Abs(-) (08/02)	HCVコアAg(+) (08/07) HCV-RNA(+) (08/07)	HCV-RNA(-) HCV-Abs(-) (08/03)	HCV-RNA(+) HCV-Abs(+) (08/07)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体 3本全部 HCV-RNA(-)		6単位	0/3	3本の原料血漿を製造。原料血漿は全て確保済み。	-	重篤	未回復			
3-08093	A-080 005 15	2008/8/5	2008/8/18	人血小坂濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	60	血液疾患	C型肝炎	07/11-08/05 07/11-08/05	HCVコアAg(+) HCV-Abs(-) (07/11)	HCV-RNA(-) (08/02) HCVコアAg(+) (08/06) HCV-RNA(+) (08/06)	-	-	-	保管検体 45本全部 HCV-RNA(-)		465単位 18単位	34/45(HCV関連検査陰性)	42本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は全て確保済み。新鮮凍結血漿-LRは2本確保済み。	原料血漿は13本使用済み。新鮮凍結血漿-LRは1本医療機関へ供給済み。	非重篤	未回復 *患者は原疾患のため(08/07)、永眠。剖検なし。輸血と死亡との関連なし(担当医の見解)			
3-08109	A-080 007 16	2008/9/3	2008/9/17	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	50	外傷・整形外科的疾患	C型肝炎	08/06	HCV-Abs(-) (08/06)	HCV-Abs(+) (08/08) HCV-RNA(+) (08/08)	HCV-RNA(+) HCV-Abs(+) (08/08)	HCV-RNA(+) HCV-Abs(+) (08/08)	陽性(輸血後)	保管検体 1本(全部) HCV-RNA(-)		2単位	0/1	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	-	非重篤	未回復			
輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性																									

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受付日	一般名	患者性別	年代	原疾患(簡略名)	感染症名	感染年	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発病及の場合約者保管検体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)	供血者発病及の場合約者の場合の供血者の検査値	
3-08114	A-080 08114 007 21	2008/9/16	2008/9/29	人血小坂濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR 新鮮凍結人血漿	男	70	循環器疾患	C型肝炎	07/07 07/07 07/07	HCVコアAg(-) HCV-Ab(-) HCVコアAb(+) HCVコアAb(-) HCVコアAg(-) HCV-Ab(-) HCVコアAb(-)	HCV-RNA(-) HCV-Ab(+) HCVコアAb(+) HCVコアAb(-) HCVコアAg(-) HCV-Ab(-) HCVコアAg(-)	-	-	-	保管検体 11本全部 HCV-RNA(-)	保管検体 2本全部 HCV-RNA(-)	併用血液製剤等		45単位 10単位 6単位	5/11(HCV関連検査陰性)	11本の原料血漿、3本の赤血球MAPを製造。原料血漿は1本減損廃棄済み。	原料血漿は10本使用済み。赤血球MAPは全て医療機関へ供給済み。	非重篤	不明			
3-08100	A-080 08100 005 95	2008/8/21	2008/7/18	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	80	消化器疾患	C型肝炎	07/11	HCV-Ab(-) HCV-Ab(+)	HCV-RNA(+) HCV-RNA(+)	HCV-RNA(+)	HCV-RNA(+)	HCV-RNA(+)	保管検体 7本全部 HCV-RNA(-)	保管検体 2本全部 HCV-RNA(-)	併用血液製剤等		4単位	0/2	1本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。	原料血漿は使用済み。新鮮凍結血漿-LRは医療機関へ供給済み。未使用であり回収。	非重篤	未回復			
陽転未確認事例																											
3-08072	A-080 08072 004 06	2008/7/4	2008/7/18	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	60	整形外科疾患	C型肝炎	07/07	-	HCV-Ab(-) HCV-Ab(-) HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) HCV-Ab(+)	-	-	-	保管検体 7本全部 HCV-RNA(-)	保管検体 7本全部 HCV-RNA(-)	併用血液製剤等		14単位	3/7(HCV関連検査陰性)	6本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。	原料血漿は全て使用済み。新鮮凍結血漿-LRは医療機関へ供給済み。	重篤	未回復			
3-08119	A-080 08119	2008/9/22	2008/9/22	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	60	消化器腫瘍	C型肝炎	07/06	HCV-Ab(-) HCV-Ab(+) HCV-RNA(-) HCV-Ab(+)	HCV-Ab(+) HCV-Ab(+) HCV-RNA(-) HCV-Ab(+)	調査中	調査中	HCV関連検査実施予定	保管検体 2本についでHCV-NAT実施予定	保管検体 2本についでHCV-NAT実施予定	併用血液製剤等		4単位	2/2(HCV関連検査陰性)	1本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRは使用の有無を調査中。	新鮮凍結血漿-LRは医療機関へ供給済み。	非重篤	調査中			
輸血によるHIV感染報告例(疑い例を含む)																											
陽転事例																											
陽転事例																											
(該当例なし)																											
陽転事例																											

識別番号	FAX受付日	報告受理日	一般名	患者性別	年代	原疾患(簡略名)	感染症名	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	投与前検査	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発病及の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT) (採時点)	供血者発病及の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT) (採時点)
3-0807100405	2008/7/4	2008/7/18	人赤血球濃厚液(照射)-LR	女	40	その他(表に記載なし)	HIV 07/02 感染	HIV-RNA(+) HIV-Ab(+) HIV-Ab WB(+) (08/06)	HIV-RNA(-) HIV-Ab(+) HIV-1Ab WB法(+) HIV-2Ab WB法(判定不能)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体3本全部 HIV-RNA(-)					4単位	1/3HIV関連検査(陰性)	3本の原料血漿を製造。	原料血漿は全て使用済み。	不明	重篤			
輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性																								
(該当例なし)																								
陽転未確認事例																								
(該当例なし)																								
輸血による細菌等感染報告例(疑い例を含む。)																								
3-0807100403	2008/7/2	2008/7/11	人小血球濃厚液(照射)	女	60	その他(腫瘍)	細菌感染	投与開始後1時間で悪寒、発熱、及び戦慄を発現し、輸血中止。院内にて実施した患者の血液培養よりStaphylococcus aureus(非MRSA)を同定した。院内にて実施した当該製剤の細菌培養よりStaphylococcus aureusを同定した。	患者検体なし(調査なし) 投与中止の当該製剤(1本)による細菌培養試験を実施、Staphylococcus aureusを検出。同一採血番号の血漿(1本)で無菌試験を実施した結果、適合。保管検体(1本)で細菌培養試験を実施。Staphylococcus aureusは検出されず。							10単位	-	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	-	重篤	軽快			

日赤番号	識別番号	報告受領日	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	患者年代	原疾患(簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発潮及の場合約、供血者尿管検体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)	供血者発潮及の場合約、供血者尿管検体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)	
3-08076	A-08000411	2008/7/9	2008/7/22	2008/7/22	人血小坂濃厚液	女	60	血液腫瘍	細菌感染	08/07	-	発赤、膨疹、shivering、BT 38.7℃、院内にて患者血培養実施、陰性。	非溶血性副作用関連検査実施。抗血漿タンパク質抗体検査：陰性。血漿タンパク質：欠損なし。衣原体：陰性。当該製剤(1本)による細菌培養試験を実施、陰性。	日赤投与前検査	日赤投与後検査	-	-	-	併用血液製剤等	被疑薬：採血3日目 の濃厚血小板(1本)	10単位	-	同一供血者製剤使用※	重篤	回復	供血者発潮及の場合約、供血者尿管検体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)	供血者発潮及の場合約、供血者尿管検体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)
3-08082	A-08000432	2008/7/16	2008/7/28	2008/7/28	人血小坂濃厚液(放射線照射)-LR	女	80	消化器腫瘍	細菌感染	08/06	-	術中術後輸血施行。翌日、敗血症発症。翌々日、敗血症性ショックにより死亡。患者血液培養より Aeromonas hydrophila を同定。	患者検体なし(調査なし) 投与中止の当該製剤(1本)による細菌培養試験を実施、陰性。	日赤投与前検査	日赤投与後検査	-	-	-	併用血液製剤等	被疑薬：採血14日目の照射赤血球濃厚液-LR(1本) 担当医師より副作用、感染症と輸血液との因果関係は不明である。」とのコメントが得られた。	2単位	-	同一供血者製剤使用※	非重篤	回復	供血者発潮及の場合約、供血者尿管検体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)	供血者発潮及の場合約、供血者尿管検体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)
3-08083	A-08000433	2008/7/16	2008/7/28	2008/7/28	新鮮凍結人血小坂濃厚液(放射線照射)-LR 人血小坂濃厚液(放射線照射)-LR 人血小坂濃厚液(放射線照射)	女	70	循環器疾患	細菌感染	08/07 08/07	-	術中術後輸血施行。翌日、敗血症発症。翌々日、敗血症性ショックにより死亡。患者血液培養より Aeromonas hydrophila を同定。	患者検体なし(調査なし) 当該製剤のセグメント チューブ(6本)で Aeromonas hydrophila に対する細菌培養試験を実施。 Aeromonas hydrophila は検出されず。	日赤投与前検査	日赤投与後検査	-	-	-	併用血液製剤等	被疑薬：採血289日、295日、316日目の新鮮凍結血漿-LR(3本) 採血14、15日目の照射赤血球濃厚液-LR(2本) 採血3日目の照射濃厚血小板(1本) 担当医師より副作用、感染症と輸血液との因果関係なしと考える。」とのコメントが得られた。	6単位 4単位 20単位	-	同一供血者製剤使用※	重篤	死亡(敗血症性ショックにて死亡、剖検なし。) *死亡の本剤との関連性なし(担当医師解)	供血者発潮及の場合約、供血者尿管検体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)	供血者発潮及の場合約、供血者尿管検体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受理日	一般名	患者性別	年代	原疾患(漏路名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発潮及供血者保管検体(抗原、NAT) (採与時点)	供血者発潮及供血者保管検体(抗原、NAT) (採与時点)
3-08085	A-08000435	2008/7/17	2008/7/31	人血小板濃厚液(放射線照射)	女	70	血液腫瘍	細菌感染	08/07	-	BT 36.8→40.7℃ 血圧164/92→80/35mmHg 脈拍81→132/min SpO2 80台後半	非溶血性副作用関連検査実施。 抗血球タンパク質抗体検査:陰性 血球タンパク質欠損検査:欠損なし 投与中止の当該製剤(1本)による細菌培養試験陰性を実施、陰性。	-	-	-	-	被疑薬:採血4日目 の照射濃厚血小板(1本)	10単位	-	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	-	重篤	軽快		
3-08092	A-08000514	2008/8/4	2008/8/18	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	50	免疫系疾患	細菌感染	08/08	BT 35.7℃ BP 90/50mmHg 脈拍50/min	BT 38.0~38.8℃ BP 172/101mmHg 脈拍80/min 呼吸数30以上 患者血液培養は未実施	投与後検体について非溶血性副作用関連検査実施。抗血球タンパク質抗体検査:陰性 当該製剤(1本)による細菌培養試験陰性を実施、陰性。	-	-	-	採血17日目の照射赤血球濃厚液-LR(1本)	2単位	-	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	-	非重篤	回復			
3-08098	A-08000568	2008/8/19	2008/9/1	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	10	血液疾患	細菌感染	08/08	-	患者血液培養よりグラム陰性菌 Pseudomonas aeruginosaを検出	投与中止の当該製剤(1本)による細菌培養試験陰性を実施、陰性。	-	-	-	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン ホリエチレンジグリコール処理人免疫グロブリン	採血8日目の照射赤血球濃厚液-LR(1本)	2単位	-	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	-	重篤	軽快		

日赤番号	識別番号	報告受領日	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年代	原疾患(簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	献血者個別検査	献血者再献血	同一献血者製剤使用※	同一献血者製剤確保※	同一献血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	献血者発病及献血者保腎検査体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)	献血者発病及献血者保腎検査体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)	献血者発病及献血者保腎検査体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)
3-08099	A-08000594	2008/8/21	2008/9/3	2008/9/3	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	30	外傷、整形外科的疾患	細菌感染症	08/08	BT36.6℃	輸血開始15分後、BT37.9℃悪寒院内にて実施の患者血培養によりMRSAを同定した。	非溶血性副作用関連検査実施。抗血球凝集検査、陰性。抗血球凝集検査、陰性。血球タンパク質欠損検査：投与中止の当該製剤(1本)による細菌培養試験陰性。	-	-	-	-	1単位	-	1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。新鮮凍結血漿-LRは確保済み。	-	-	重篤	軽快		
3-08103	A-08000626	2008/8/25	2008/9/8	2008/9/8	人血小坂濃厚液(放射線照射)	男	50	血液腫瘍	細菌感染症	08/08	-	14:17 輸血中止。BP71/39 胸苦あり 15:10 BPI09/33 悪寒・ふるえ 100% SpO2 98~ 17:30 BT40.6℃ BPI24/74 23:00 BP64/- BT37.7℃ BP84/- 院内の患者血液培養にてG群連鎖球菌を同定した。	非溶血性副作用関連検査実施。抗血球凝集検査、陰性。投与中止の当該製剤(1本)による細菌培養試験陰性。G群連鎖球菌を同定した。結核菌を同定した。同一採血番号の血漿(1本)で無菌試験を実施した結果、適合。保管検体(1本)で細菌培養試験を実施した結果、G群連鎖球菌は検出されず。	-	-	10単位	-	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	-	-	重篤	軽快				

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受付日	一般名	患者性別	患者年代	原疾患(簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	献血者再献血※	同一献血者製剤確保※	同一献血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	献血者発病及の場合の献血者保管検体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)	献血者発病及の場合の献血者の検査
3-08104	A-08000627	2008/8/26	2008/9/8	人赤血球濃厚液(成分線照射)-LR	女	30	外科、整形外科疾患出血	細菌感染	SpO2 98% pH 7.519 PaO2 71.4mmHg PaCO2 35.7mmHg FIO2 30% BT 37.3°C BP123/64 HRI28	投与後検査 BPI74/85 HRI24 SpO2 72~80% 輸血中止、悪寒5分以上持続。 SpO2 98% pH 7.490 PaO2 507.6mmHg PaCO2 32.6mmHg FIO2 100% BT 38.4°C 院内にて実施の患者血液培養は陰性 センターからEnterococcus faecalisを同定	日赤投与前検査 非溶血性副作用関連検査実施予定。 投与中止の当該製剤(1本)による細菌培養試験を実施する予定。	調査中	-	-	併用血液製剤等 採血15日目の照射赤血球濃厚液-LR(1本)	2単位	-	調査中	調査中	非重篤 軽快	転帰	献血者発病及の場合の献血者保管検体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)	献血者発病及の場合の献血者の検査		
3-08108	A-08000714	2008/9/3	2008/9/16	人赤血球濃厚液-LR	女	20	神経腫瘍呼吸器疾患	細菌感染	BP130→95 輸血中止 30分後には発熱もなくなりBPも120-130まで回復 患者血液培養調査中	非溶血性副作用関連検査実施予定。 被疑薬2本の内、1本については同一採血番号の血漿(1本)で無菌試験を実施し、残る1本については当該製剤(1本)による細菌培養試験を実施する予定。	調査中	-	-	併用血液製剤等 被疑薬:採血6,7日目の赤血球濃厚液-LR(2本)	4単位	-	2本の原料血漿を製造。原料血漿は使用の有無を調査中。	調査中	重篤 回復	転帰	献血者発病及の場合の献血者保管検体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)	献血者発病及の場合の献血者の検査			
3-08110	A-08000717	2008/9/4	2008/9/17	人赤血球濃厚液(成分線照射)-LR	女	70	血液疾患	細菌感染	BT40.1°C 患者血液培養陰性。	非溶血性副作用関連検査実施予定。 当該製剤のセグメントチューブ(1本)による細菌培養試験を実施する予定。	調査中	-	-	-	併用血液製剤等 被疑薬:採血14日目の照射赤血球濃厚液-LR(1本)	2単位	-	調査中	調査中	重篤 軽快	転帰	献血者発病及の場合の献血者保管検体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)	献血者発病及の場合の献血者の検査		

日赤番号	識別番号	報告受理日	FAX受付日	報告受理日	一般名	患者性別	年代	原疾患(簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発病及の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT) (採時点)	供血者発病及の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT) (採時点)
3-0811300720	A-08000720	2008/9/11	2008/9/22	2008/9/22	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	70	消化器腫瘍 肝・胆・膵腫瘍	細菌感染症	08/09	輸血前日 BT 36.8℃	輸血開始5時間後 BT 38.0℃ 悪寒 輸血日後 BT 40℃ 血培養採取 患者血培養 養よりBacillus cereusを同定。	同一採血番号の血漿(1本)で無菌試験を実施予定。	-	-	-	-	被疑薬:採血10日目の照射赤血球濃厚液-LR(1本)	2単位	-	1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。新鮮凍結血漿-LRは確保済み。	-	重篤	回復		
3-0811600723	A-08000723	2008/9/18	2008/10/1	2008/10/1	人赤血球濃厚液-LR	男	60	血液腫瘍	細菌感染症	08/09	-	輸血開始1.5時間後に悪寒、シハリン	調査中	-	-	-	非溶血性副作用関連検査実施予定。当該製剤のセクメントチューブ(1本)によるPseudomonas aeruginosaに対する細菌培養試験を実施する予定。	被疑薬:採血13日目の赤血球濃厚液-LR(1本)	2単位	-	1本の原料血漿を製造。原料血漿は使用の有無を調査中。	調査中	非重篤	軽快		
3-0811800725	A-08000725	2008/9/22	2008/10/1	2008/10/1	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	50	血液腫瘍	細菌感染症	08/09	-	輸血開始後40分で悪寒、戦慄あり。輸血中止。その20分後に発熱(38.2℃)血圧低下(-)皮膚疹(-)呼吸の異常なし。院内にて実施の患者及び輸血ルート血液培養よりAcinetobacter baumanniiを同定。	非溶血性副作用関連検査実施。抗質抗体検査:陰性 血漿タンパク質欠損検査:欠損なし 投与中止の当該製剤(1本)による細菌培養試験を実施する予定。	-	-	被疑薬:採血12日目の照射赤血球濃厚液-LR(1本) 2008年9月8日に副作用名「悪寒、戦慄、発熱」として情報入手し、担当医の重篤度判断が非重篤であったため報告対象外としていたが、9月19日に細菌感染も疑われ、関連項目を調査してほしいという追加情報を入手したため、感染症症例として報告する。	2単位	-	1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。新鮮凍結血漿-LRは確保済み。	-	非重篤	軽快				

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受理日	一般名	患者性別	年代	原疾患(箇所名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	併用血	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発症及供血者尿管検体(抗原、NAT)採与時点)	供血者発症及供血者尿管検体(抗原、NAT)採与時点)	
3-08120		2008/9/22		人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	50	呼吸器腫瘍	細菌感染症	BT 37℃前後	BT 37℃前後	輸血終了直後より膨疹と痒みが向上肢に出現。BP 179/101抗ヒスタミン剤投与で改善。BT 37.9℃4時間後BT 38.9℃悪寒あり3日後BT38℃前後。患者血液培養施行。4日後マキーンチーム殺菌により解熱傾向。	非溶血性副作用関連検査実施予定。使用済みバッグによる細菌培養試験を実施する予定。	-	-	-			被疑薬:採血11日目の照射赤血球濃厚液-LR(1本)	2単位	-	調査中	調査中	非重篤	調査中		
3-08121		2008/10/2		人赤血球濃厚液-LR 新鮮凍結血漿-LR 照射濃厚血小板	男	0	先天性疾患 循環器疾患	細菌感染症	08/09 08/09 08/09	2日間にわたり輸血飛行。(手術開始日及び翌日の手術終了日)	手術終了後はBT36℃台。血小板製剤輸血開始後徐々に体温上昇。BT37℃後半。以後37℃台が続く。1日後、38℃後半の発熱。2日後、発熱は40℃まで。患者血液培養よりPseudomonas aeruginosaを同定。	同一採血番号の血漿(5本)で無菌試験を実施予定。	-	-		被疑薬:採血8、4、15日目の赤血球濃厚液-LR(3本)、採血24日目の新鮮凍結血漿-LR(1本)、採血3日目の照射濃厚血小板(1本)	5単位 2単位 10単位	-	調査中	調査中	重篤	軽快				

試行的 HEV20 プール NAT 実施状況について

(輸血後 HEV 感染の予防対策)

1. 試行的 HEV20 プール NAT 実施状況

北海道赤十字血液センター管内

調査期間:平成 17 年 1 月 1 日～平成 20 年 8 月 31 日

	献血者数	HEV-RNA 陽性	陽性率
H17. 1～H18. 2 ^{*1}	341, 174	45	1/7, 582
H18. 3～H20. 8 ^{*2}	667, 143	80	1/8, 339
合計	1, 008, 317	125	1/8, 067

*1 北海道センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体も含む)

*2 血漿分画センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体は除く)

2. HEV-RNA 陽性献血者の内訳

別添

2. HEV-RNA陽性者の内訳

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		経過 対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
1	2005/01/04	32	M	57	-	-	+	無	不明レバー	生	無	
2	2005/02/07	38	F	11	-	-	+	無	ブタレバー	生	無	
3	2005/02/13	41	M	103	-	-	+	無	回答なし		無	
4	2005/03/25	65	F	17	-	-	+	無	回答なし		無	
5	2005/03/27	26	M	38	-	-	+	有	不明レバー(問診時)	生	有	赤血球製剤破損のため院内廃棄
6	2005/04/10	54	F	20	-	-	+	無	ウシ精肉	半生	無	
7	2005/04/15	59	F	16	-	-	+	無	ブタホルモン、シカ精肉	十分加熱	無	
8	2005/04/15	35	F	16	-	-	+	無	シカ精肉、ウシ精肉 ウシレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
9	2005/04/20	25	M	24	+	+	+	無	ウシレバー、ウシ精肉 ウシホルモン、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	有	感染なし
10	2005/04/28	22	M	44	-	-	+	無	回答なし		無	
11	2005/06/07	42	M	24	+	+	+	無	ウシ精肉 ウシホルモン、ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
12	2005/06/22	51	M	52	-	-	+	無	回答なし		無	
13	2005/07/03	58	M	219	+	+	+	無	不明レバー、ブタ精肉	十分加熱	無	
14	2005/07/05	22	M	23	+	-	+	無	回答なし		無	
15	2005/07/05	38	M	15	-	-	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	半生	無	
16	2005/07/13	24	M	19	-	-	+	無	ウシレバー	生	有	原疾患により死亡
17	2005/09/02	33	M	49	-	-	+	無	ウシ精肉 ヒツジ精肉 ブタホルモン、ブタ精肉	生 半生 十分加熱	無	
18	2005/09/01	29	F	100	+	+	+	無	ウシホルモン、ヒツジ精肉 ウシレバー、ウシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
19	2005/09/20	42	M	31	-	-	+	無	ブタホルモン、不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	HEV感染(H17.11.1 運営委員会報告済み)
20	2005/09/27	20	F	10	-	-	+	無	ウシ精肉、ブタホルモン、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
21	2005/10/21	41	M	12	-	-	+	無	回答なし		無	
22	2005/10/25	44	F	38	+	+	+	無	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
23	2005/11/07	30	F	21	-	-	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ヒツジ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
24	2005/11/07	31	F	12	+	+	+	有	ブタレバー、ブタホルモン、ウシ精肉	十分加熱	無	
25	2005/11/20	28	M	47	+	+	+	有	ウシレバー、ウマ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	生 十分加熱	無	
26	2005/11/29	35	F	333	+	+	+	有	回答なし		無	
27	2005/12/13	42	M	30	-	-	+	有	ウシ精肉、ヒツジ精肉 不明レバー、ブタ精肉	半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
28	2005/12/13	30	M	11	-	-	+	有	不明レバー	十分加熱	有	HEV感染(H18.01.26 運営委員会報告済み)
29	2005/12/22	62	F	14	-	-	+	無	回答なし		無	
30	2005/12/27	42	F	14	-	-	+	無	回答なし		無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遊及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
31	2006/01/02	22	F	12	-	-	+	有	ウシレバー、ウシ精肉	十分加熱	無	
32	2006/01/06	68	M	23	-	-	+	無	ウシレバー、ブタホルモン、ヒツジ精肉	半生	無	
33	2006/01/13	36	M	42	-	-	+	無	ウマ精肉、不明レバー ウシ精肉、ヒツジ精肉、 ウシレバー、ブタ精肉、ブタホルモン	生 十分加熱	無	
34	2006/01/18	53	M	238	+	+	+	有	ウシレバー、ウシホルモン	十分加熱	無	
35	2006/01/13	31	M	43	-	-	+	有	不明レバー ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
36	2006/01/17	48	M	25	-	-	+	無	回答なし		無	
37	2006/01/25	52	M	25	-	-	+	無	不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	輸血後89日現在、HEVマーカーの陽転は見られず追跡調査終了
38	2006/01/30	39	F	22	-	-	+	無	回答なし		無	
39	2006/01/30	25	M	32	-	-	+	有	ウシ精肉、ウシホルモン、ブタ精肉	十分加熱	無	
40	2006/02/02	39	F	35	-	+	+	有	ウシレバー ウシレバー ヒツジ精肉	生 十分加熱	無	
41	2006/02/07	57	M	13	-	-	+	無	不明	不明	無	
42	2006/02/07	40	F	172	+	+	+	無	ウシ精肉	十分加熱	無	
43	2006/02/17	39	M	28	-	-	+	無	ブタホルモン、ブタレバー、ブタガツ、ヒツジ精肉 イノシシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
44	2006/02/20	58	M	22	-	-	+	無	ヒツジ精肉	十分加熱	無	
45	2006/02/21	45	M	30	-	-	+	無	ウシ精肉 ブタ精肉、ブタレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
46	2006/03/01	46	F	15	-	-	+	無	回答なし		無	
47	2006/03/01	50	F	29	-	-	+	無	回答なし		無	
48	2006/03/02	54	M	47	+	+	+	無	ウシ・ブタ(精肉、レバー、ホルモン)、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
49	2006/03/27	40	F	12	-	-	+	無	回答なし		無	
50	2006/04/01	31	F	16	-	-	+	無	ヒツジ精肉	半生	無	
51	2006/04/04	30	F	14	-	-	+	無	ブタ精肉、不明レバー	十分加熱	無	
52	2006/04/12	38	M	45	+	+	+	無	ブタレバー、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
53	2006/04/18	21	M	26	-	-	+	無	ウシ精肉、ウシホルモン ウシ精肉、ウシホルモン	半生 十分加熱	無	
54	2006/04/22	28	M	14	+	+	+	無	回答なし		無	
55	2006/04/26	46	M	19	-	-	+	無	ブタレバー	半生	無	
56	2006/05/18	62	M	27	-	-	+	無	ヒツジレバー	十分加熱	無	
57	2006/07/07	17	M	33	-	-	+	無	回答なし		無	
58	2006/07/11	34	F	10	-	-	+	無	回答なし		無	
59	2006/07/12	21	F	27	-	-	+	無	回答なし		無	
60	2006/07/22	49	M	46	+	+	+	無	ウシ精肉、ブタ精肉、ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遊及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
61	2006/08/01	62	M	18	-	-	+	/	ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
62	2006/09/06	44	F	14	-	-	+	/	喫食歴なし		無	
63	2006/09/29	68	M	15	-	-	+	/	ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
64	2006/10/21	29	M	22	-	-	+	/	不明		無	
65	2006/11/19	48	M	58	-	-	+	/	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
66	2006/11/23	54	M	18	-	-	+	/	回答なし		無	
67	2006/12/01	43	M	55	-	+	+	/	ブタ精肉	十分加熱	無	
68	2006/12/04	60	M	46	+	+	+	/	ウシ精肉	十分加熱	無	
69	2006/12/04	47	M	40	+	+	+	/	ウシ精肉、ウシホルモン	十分加熱	無	
70	2007/03/01	33	M	41	-	-	+	/	ウシレバー	生	無	
71	2007/03/15	42	M	32	-	+	+	/	ブタレバー、ブタホルモン	半生	無	
72	2007/03/27	55	M	30	-	-	+	/	不明レバー	十分加熱	無	
73	2007/04/07	22	F	9	-	-	+	/	ユッケ ウシホルモン、ヒツジホルモン	生 十分加熱	無	
74	2007/05/16	47	F	15	-	-	+	/	ヒツジ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無	
75	2007/05/18	40	F	27	+	+	+	/	ブタ生ハム(自家製)	半生	無	
76	2007/05/30	33	M	26	-	+	+	/	ヒツジ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無	
77	2007/06/22	38	M	20	-	-	+	/	ウシ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
78	2007/06/25	45	M	37	+	+	+	/	ブタ精肉 ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
79	2007/06/27	37	M	18	-	-	+	/	ブタ精肉	十分加熱	無	
80	2007/07/24	57	M	24	-	-	+	/	喫食歴なし		無	
81	2007/07/29	37	M	48	-	-	+	/	不明レバー、ブタホルモン 不明レバー、ブタホルモン	十分加熱 半生	無	
82	2007/07/31	48	M	30	-	-	+	/	ブタ精肉、ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	
83	2007/08/01	48	M	33	-	-	+	/	ブタ精肉 ウシ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
84	2007/08/04	53	M	28	-	-	+	/	ヒツジ精肉 ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
85	2007/08/26	50	M	60	-	-	+	/	ヒツジ精肉 ウシ精肉	十分加熱 生	無	
86	2007/09/05	41	M	29	-	-	+	/	喫食歴なし		無	
87	2007/09/18	41	M	23	-	-	+	/	ウシ精肉、ブタ精肉、ウシホルモン、ブタホルモン	半生	無	
88	2007/09/21	57	M	19	-	-	+	/	ブタホルモン	十分加熱	無	
89	2007/10/03	59	M	39	-	-	+	/	ブタレバー、ブタ精肉	十分加熱	無	
90	2007/10/03	19	M	40	-	-	+	/	喫食歴なし		無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遊及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
91	2007/10/09	35	M	19	-	-	+	/	ブタ精肉	十分加熱	無	
92	2007/10/18	30	M	31	-	-	+	/	ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
93	2007/11/16	24	M	5	-	-	+	/	不明		無	
94	2007/11/16	54	M	22	-	+	+	/	ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	
95	2007/11/16	45	M	47	-	-	+	/	ブタ精肉 ブタレバー	十分加熱 半生	無	
96	2007/11/19	58	M	13	-	-	+	/	レバー、ホルモン	不明	無	
97	2007/11/19	24	M	46	-	-	+	/	不明		無	
98	2007/11/24	36	M	25	-	-	+	/	不明		無	
99	2007/11/29	42	M	21	-	+	+	/	不明		無	
100	2007/11/30	31	M	42	+	+	+	/	レバー	不明	無	
101	2008/01/08	35	M	36	-	-	+	/	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
102	2008/01/17	48	F	13	+	+	+	/	ブタホルモン、シカ精肉 ウシ精肉	十分加熱 半生	無	
103	2008/01/29	57	M	22	-	-	+	/	ブタレバー、ブタホルモン	十分加熱	無	
104	2008/02/04	31	M	47	+	+	+	/	不明		無	
105	2008/02/06	57	M	20	-	-	+	/	ブタホルモン	十分加熱	無	
106	2008/02/13	42	M	35	-	-	+	/	不明レバー	十分加熱	無	
107	2008/02/13	60	M	37	+	+	+	/	不明		無	
108	2008/03/11	30	M	21	-	-	+	/	不明		無	
109	2008/03/25	34	F	26	-	-	+	/	喫食歴なし		無	
110	2008/03/26	32	M	41	+	+	+	/	ブタ精肉、ウシ精肉	十分加熱	無	
111	2008/03/29	54	M	26	-	-	+	/	ブタ精肉	十分加熱	無	
112	2008/03/30	19	F	9	-	-	+	/	不明レバー	十分加熱	無	
113	2008/04/16	48	M	13	-	-	+	/	不明		無	
114	2008/05/12	33	M	12	-	-	+	/	ブタ精肉、ブタホルモン	半生	無	
115	2008/05/28	39	F	29	-	-	+	/	不明		無	
116	2008/05/28	47	M	46	-	-	+	/	ブタホルモン	十分加熱	無	
117	2008/06/04	43	M	38	+	+	+	/	ウシレバー ウシホルモン、ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	生 十分加熱	無	
118	2008/06/07	42	M	11	-	-	+	/	ウシレバー ブタ精肉	生 十分加熱	無	
119	2008/06/23	48	M	17	-	-	+	/	ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	半生	無	
120	2008/07/10	39	M	32	-	-	+	/	ウシ、ブタ、ヒツジ精肉 ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		波及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
121	2008/07/11	39	M	28	-	-	+	/	不明		無	
122	2008/07/26	34	M	35	-	-	+	/	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
123	2008/07/27	36	M	45	-	-	+	/	不明		無	
124	2008/07/30	24	M	10	-	-	+	/	不明		無	
125	2008/08/20	19	M	17	+	-	+	/	不明		無	

※1: 問診喫食歴調査内容

05年1月1日～05年10月31日: 「過去3ヶ月以内にブタ、シカ、イノシシあるいは動物種不明の生肉、生レバーの喫食歴」

05年11月1日～06年03月31日: 「過去3ヶ月以内に生肉(半生も含む)、レバー、ホルモン(動物種、焼き方を問わず)の喫食歴」、なお本調査は06年03月31日をもって終了

事 務 連 絡
平成20年10月6日

日本赤十字社血液事業本部 御中

薬事・食品衛生審議会血液事業部会事務局
厚生労働省医薬食品局血液対策課

血液製剤に関する報告事項について

血液事業の推進に御努力いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、標記につきましては、平成20年6月27日付け血安第242号にて貴社から報告を頂いたところですが、平成20年10月29日（水）に平成20年度第3回血液事業部会運営委員会が開催されますので、下記の事項について資料を作成いただき、平成20年10月9日（木）までに当事務局あて御提出いただきますようお願いいたします。記の14については、平成20年7月15日開催平成20年度第2回血液事業部会運営委員会提出資料を更新のうえ、再度御提出ください。

なお、資料の作成に当たっては、供血者、患者及び医療機関の名称並びにこれらの所在地又はこれらの事項が特定できる情報を記載しないよう、個人情報及び法人情報の保護に特段の御配慮をお願いします。

記

1. 平成15年9月5日付けで報告された輸血用血液製剤でHIVの感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
2. 平成16年3月22日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る5人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
3. 平成16年11月26日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る8人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
4. 平成17年1月12日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る4人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。

査結果。来訪がなければ、その旨。

5. 平成17年2月4日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
6. 平成17年6月23日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る5人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
7. 平成18年4月7日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る9人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
8. 平成18年6月5日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
9. 平成19年2月20日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
10. 平成20年1月23日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る10人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
11. 平成20年2月8日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
12. 平成20年5月14日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
13. 平成18年2月15日報告、3月8日付けで追加報告された輸血用血液製剤でHCV（C型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る3人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
14. 試行的HEV20プールNATについて、その後の調査実施状況。

血 安 第 4 0 9 号
平成20年10月9日

厚生労働省医薬食品局血液対策課長 様

日本赤十字社
血液事業本部長

血液製剤に関する報告事項について（回答）

平成20年10月6日付事務連絡によりご依頼のありました標記の件については、下記により回答いたします。

記

1. 平成15年9月5日付けで報告された輸血用血液製剤でH I Vの感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る2人のその後の来訪なし。（8名中6名が来所、検査は全て陰性）
2. 平成16年3月22日付けで報告された輸血用血液製剤でH B V（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る5人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る5人のその後の来訪なし。（37名中32名が来所、検査は全て陰性）
3. 平成16年11月26日付けで報告された輸血用血液製剤でH B V（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る8人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る8人のその後の来訪なし。（48名中40名が来所、検査は全て陰性）
4. 平成17年1月12日付けで報告された輸血用血液製剤でH B V（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る4人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る4人のその後の来訪なし。（16名中12名が来所、検査は全て陰性）
5. 平成17年2月4日付けで報告された輸血用血液製剤でH B V（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る1人のその後の来訪なし。（追跡調査対象の4名中3名が来所、HBV-DNAは全て陰性。1名はHBc抗体がEIA法のみ陽性HI法陰性、その他の者は全て陰性）

6. 平成17年6月23日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る5人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る5人のその後の来訪なし。（20名中15名が来所、検査は全て陰性）
7. 平成18年4月7日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る9人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る9人のその後の来訪なし。（53名中44名が来所、HBV-DNAは全て陰性。
2名はHBc抗体及びHBs抗体陽性、1名はHBs抗体のみ陽性、その他の者は全て陰性）
8. 平成18年6月5日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る2人のその後の来訪なし。（29名中27名が来所、HBV-DNAは全て陰性。
2名はHBc抗体及びHBs抗体陽性、1名はHBs抗体のみ陽性、その他の者は全て陰性）
9. 平成19年2月20日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る1人のその後の来訪なし。（3名中2名が来所、検査は全て陰性）
10. 平成20年1月23日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る10人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る10人がその後再採血に協力いただき、検査は陰性。（24名中24名全員が来所、HBV-DNAは全て陰性。1名はHBc抗体及びHBs抗体陽性、2名はHBs抗体のみ陽性、その他の者は全て陰性）
11. 平成20年2月8日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 1人がその後再採血に協力いただき、検査は陰性。（56名中55名が来所、HBV-DNAは全て陰性。1名*はEIA法でHBs抗原及びHBc抗体陽性、1名はHBc抗体及びHBs抗体陽性、1名はHBs抗体のみ陽性、その他の者は全て陰性）
*再採血時にEIA法でHBs抗原及びHBc抗体陽性であった1人については、当該献血時においてもEIA法でHBs抗原及びHBc抗体陽性であった。

12. 平成20年5月14日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。

⇒ 残る2人のその後の来訪なし。（2名中来所者なし）

13. 平成18年2月15日報告、3月8日付けで追加報告された輸血用血液製剤でHCV（C型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る3人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。

⇒ 残る3人のその後の来訪なし。（81名中78名が来所、検査は全て陰性）

14. 試行的HEV20プールNATについて、その後の調査実施状況。

⇒ 別紙のとおり

試行的 HEV20 プール NAT 実施状況について
(輸血後 HEV 感染の予防対策)

1. 試行的 HEV20 プール NAT 実施状況

北海道赤十字血液センター管内
調査期間:平成 17 年 1 月 1 日～平成 20 年 8 月 31 日

	献血者数	HEV-RNA 陽性	陽性率
H17. 1～H18. 2 ^{*1}	341, 174	45	1/7, 582
H18. 3～H20. 8 ^{*2}	667, 143	80	1/8, 339
合計	1, 008, 317	125	1/8, 067

*1 北海道センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体も含む)

*2 血漿分画センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体は除く)

2. HEV-RNA 陽性献血者の内訳

別添

2. HEV-RNA陽性者の内訳

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		経過 対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
1	2005/01/04	32	M	57	-	-	+	無	不明レバー	生	無	
2	2005/02/07	38	F	11	-	-	+	無	ブタレバー	生	無	
3	2005/02/13	41	M	103	-	-	+	無	回答なし		無	
4	2005/03/25	65	F	17	-	-	+	無	回答なし		無	
5	2005/03/27	26	M	38	-	-	+	有	不明レバー(問診時)	生	有	赤血球製剤破損のため院内廃棄
6	2005/04/10	54	F	20	-	-	+	無	ウシ精肉	半生	無	
7	2005/04/15	59	F	16	-	-	+	無	ブタホルモン、シカ精肉	十分加熱	無	
8	2005/04/15	35	F	16	-	-	+	無	シカ精肉、ウシ精肉 ウシレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
9	2005/04/20	25	M	24	+	+	+	無	ウシレバー、ウシ精肉 ウシホルモン、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	有	感染なし
10	2005/04/28	22	M	44	-	-	+	無	回答なし		無	
11	2005/06/07	42	M	24	+	+	+	無	ウシ精肉 ウシホルモン、ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
12	2005/06/22	51	M	52	-	-	+	無	回答なし		無	
13	2005/07/03	58	M	219	+	+	+	無	不明レバー、ブタ精肉	十分加熱	無	
14	2005/07/05	22	M	23	+	-	+	無	回答なし		無	
15	2005/07/05	38	M	15	-	-	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	半生	無	
16	2005/07/13	24	M	19	-	-	+	無	ウシレバー	生	有	原疾患により死亡
17	2005/09/02	33	M	49	-	-	+	無	ウシ精肉 ヒツジ精肉 ブタホルモン、ブタ精肉	生 半生 十分加熱	無	
18	2005/09/01	29	F	100	+	+	+	無	ウシホルモン、ヒツジ精肉 ウシレバー、ウシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
19	2005/09/20	42	M	31	-	-	+	無	ブタホルモン、不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	HEV感染(H17.11.1 運営委員会報告済み)
20	2005/09/27	20	F	10	-	-	+	無	ウシ精肉、ブタホルモン、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
21	2005/10/21	41	M	12	-	-	+	無	回答なし		無	
22	2005/10/25	44	F	38	+	+	+	無	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
23	2005/11/07	30	F	21	-	-	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ヒツジ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
24	2005/11/07	31	F	12	+	+	+	有	ブタレバー、ブタホルモン、ウシ精肉	十分加熱	無	
25	2005/11/20	28	M	47	+	+	+	有	ウシレバー、ウマ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	生 十分加熱	無	
26	2005/11/29	35	F	333	+	+	+	有	回答なし		無	
27	2005/12/13	42	M	30	-	-	+	有	ウシ精肉、ヒツジ精肉 不明レバー、ブタ精肉	半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
28	2005/12/13	30	M	11	-	-	+	有	不明レバー	十分加熱	有	HEV感染(H18.01.26 運営委員会報告済み)
29	2005/12/22	62	F	14	-	-	+	無	回答なし		無	
30	2005/12/27	42	F	14	-	-	+	無	回答なし		無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遊及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
31	2006/01/02	22	F	12	-	-	+	有	ウシレバー、ウシ精肉	十分加熱	無	
32	2006/01/06	68	M	23	-	-	+	無	ウシレバー、ブタホルモン、ヒツジ精肉	半生	無	
33	2006/01/13	36	M	42	-	-	+	無	ウマ精肉、不明レバー ウシ精肉、ヒツジ精肉、 ウシレバー、ブタ精肉、ブタホルモン	生 十分加熱	無	
34	2006/01/18	53	M	238	+	+	+	有	ウシレバー、ウシホルモン	十分加熱	無	
35	2006/01/13	31	M	43	-	-	+	有	不明レバー ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
36	2006/01/17	48	M	25	-	-	+	無	回答なし		無	
37	2006/01/25	52	M	25	-	-	+	無	不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	輸血後89日現在、HEVマーカーの陽転は見られず追跡調査終了
38	2006/01/30	39	F	22	-	-	+	無	回答なし		無	
39	2006/01/30	25	M	32	-	-	+	有	ウシ精肉、ウシホルモン、ブタ精肉	十分加熱	無	
40	2006/02/02	39	F	35	-	+	+	有	ウシレバー ウシレバー ヒツジ精肉	生 十分加熱	無	
41	2006/02/07	57	M	13	-	-	+	無	不明	不明	無	
42	2006/02/07	40	F	172	+	+	+	無	ウシ精肉	十分加熱	無	
43	2006/02/17	39	M	28	-	-	+	無	ブタホルモン、ブタレバー、ブタガツ、ヒツジ精肉 イノシシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
44	2006/02/20	58	M	22	-	-	+	無	ヒツジ精肉	十分加熱	無	
45	2006/02/21	45	M	30	-	-	+	無	ウシ精肉 ブタ精肉、ブタレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
46	2006/03/01	46	F	15	-	-	+	無	回答なし		無	
47	2006/03/01	50	F	29	-	-	+	無	回答なし		無	
48	2006/03/02	54	M	47	+	+	+	無	ウシ・ブタ(精肉、レバー、ホルモン)、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
49	2006/03/27	40	F	12	-	-	+	無	回答なし		無	
50	2006/04/01	31	F	16	-	-	+	無	ヒツジ精肉	半生	無	
51	2006/04/04	30	F	14	-	-	+	無	ブタ精肉、不明レバー	十分加熱	無	
52	2006/04/12	38	M	45	+	+	+	無	ブタレバー、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
53	2006/04/18	21	M	26	-	-	+	無	ウシ精肉、ウシホルモン ウシ精肉、ウシホルモン	半生 十分加熱	無	
54	2006/04/22	28	M	14	+	+	+	無	回答なし		無	
55	2006/04/26	46	M	19	-	-	+	無	ブタレバー	半生	無	
56	2006/05/18	62	M	27	-	-	+	無	ヒツジレバー	十分加熱	無	
57	2006/07/07	17	M	33	-	-	+	無	回答なし		無	
58	2006/07/11	34	F	10	-	-	+	無	回答なし		無	
59	2006/07/12	21	F	27	-	-	+	無	回答なし		無	
60	2006/07/22	49	M	46	+	-	+	無	ウシ精肉、ブタ精肉、ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遊及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
61	2006/08/01	62	M	18	-	-	+	/	ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
62	2006/09/06	44	F	14	-	-	+	/	喫食歴なし		無	
63	2006/09/29	68	M	15	-	-	+	/	ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
64	2006/10/21	29	M	22	-	-	+	/	不明		無	
65	2006/11/19	48	M	58	-	-	+	/	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
66	2006/11/23	54	M	18	-	-	+	/	回答なし		無	
67	2006/12/01	43	M	55	-	+	+	/	ブタ精肉	十分加熱	無	
68	2006/12/04	60	M	46	+	+	+	/	ウシ精肉	十分加熱	無	
69	2006/12/04	47	M	40	+	+	+	/	ウシ精肉、ウシホルモン	十分加熱	無	
70	2007/03/01	33	M	41	-	-	+	/	ウシレバー	生	無	
71	2007/03/15	42	M	32	-	+	+	/	ブタレバー、ブタホルモン	半生	無	
72	2007/03/27	55	M	30	-	-	+	/	不明レバー	十分加熱	無	
73	2007/04/07	22	F	9	-	-	+	/	ユッケ ウシホルモン、ヒツジホルモン	生 十分加熱	無	
74	2007/05/16	47	F	15	-	-	+	/	ヒツジ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無	
75	2007/05/18	40	F	27	+	+	+	/	ブタ生ハム(自家製)	半生	無	
76	2007/05/30	33	M	26	-	+	+	/	ヒツジ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無	
77	2007/06/22	38	M	20	-	-	+	/	ウシ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
78	2007/06/25	45	M	37	+	+	+	/	ブタ精肉 ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
79	2007/06/27	37	M	18	-	-	+	/	ブタ精肉	十分加熱	無	
80	2007/07/24	57	M	24	-	-	+	/	喫食歴なし		無	
81	2007/07/29	37	M	48	-	-	+	/	不明レバー、ブタホルモン 不明レバー、ブタホルモン	十分加熱 半生	無	
82	2007/07/31	48	M	30	-	-	+	/	ブタ精肉、ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	
83	2007/08/01	48	M	33	-	-	+	/	ブタ精肉 ウシ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
84	2007/08/04	53	M	28	-	-	+	/	ヒツジ精肉 ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
85	2007/08/26	50	M	60	-	-	+	/	ヒツジ精肉 ウシ精肉	十分加熱 生	無	
86	2007/09/05	41	M	29	-	-	+	/	喫食歴なし		無	
87	2007/09/18	41	M	23	-	-	+	/	ウシ精肉、ブタ精肉、ウシホルモン、ブタホルモン	半生	無	
88	2007/09/21	57	M	19	-	-	+	/	ブタホルモン	十分加熱	無	
89	2007/10/03	59	M	39	-	-	+	/	ブタレバー、ブタ精肉	十分加熱	無	
90	2007/10/03	19	M	40	-	-	+	/	喫食歴なし		無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遊及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
91	2007/10/09	35	M	19	-	-	+	/	ブタ精肉	十分加熱	無	
92	2007/10/18	30	M	31	-	-	+	/	ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
93	2007/11/16	24	M	5	-	-	+	/	不明		無	
94	2007/11/16	54	M	22	-	+	+	/	ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	
95	2007/11/16	45	M	47	-	-	+	/	ブタ精肉 ブタレバー	十分加熱 半生	無	
96	2007/11/19	58	M	13	-	-	+	/	レバー、ホルモン	不明	無	
97	2007/11/19	24	M	46	-	-	+	/	不明		無	
98	2007/11/24	36	M	25	-	-	+	/	不明		無	
99	2007/11/29	42	M	21	-	+	+	/	不明		無	
100	2007/11/30	31	M	42	+	+	+	/	レバー	不明	無	
101	2008/01/08	35	M	36	-	-	+	/	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
102	2008/01/17	48	F	13	+	+	+	/	ブタホルモン、シカ精肉 ウシ精肉	十分加熱 半生	無	
103	2008/01/29	57	M	22	-	-	+	/	ブタレバー、ブタホルモン	十分加熱	無	
104	2008/02/04	31	M	47	+	+	+	/	不明		無	
105	2008/02/06	57	M	20	-	-	+	/	ブタホルモン	十分加熱	無	
106	2008/02/13	42	M	35	-	-	+	/	不明レバー	十分加熱	無	
107	2008/02/13	60	M	37	+	+	+	/	不明		無	
108	2008/03/11	30	M	21	-	-	+	/	不明		無	
109	2008/03/25	34	F	26	-	-	+	/	喫食歴なし		無	
110	2008/03/26	32	M	41	+	+	+	/	ブタ精肉、ウシ精肉	十分加熱	無	
111	2008/03/29	54	M	26	-	-	+	/	ブタ精肉	十分加熱	無	
112	2008/03/30	19	F	9	-	-	+	/	不明レバー	十分加熱	無	
113	2008/04/16	48	M	13	-	-	+	/	不明		無	
114	2008/05/12	33	M	12	-	-	+	/	ブタ精肉、ブタホルモン	半生	無	
115	2008/05/28	39	F	29	-	-	+	/	不明		無	
116	2008/05/28	47	M	46	-	-	+	/	ブタホルモン	十分加熱	無	
117	2008/06/04	43	M	38	+	+	+	/	ウシレバー ウシホルモン、ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	生 十分加熱	無	
118	2008/06/07	42	M	11	-	-	+	/	ウシレバー ブタ精肉	生 十分加熱	無	
119	2008/06/23	48	M	17	-	-	+	/	ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	半生	無	
120	2008/07/10	39	M	32	-	-	+	/	ウシ、ブタ、ヒツジ精肉 ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		波及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
121	2008/07/11	39	M	28	-	-	+	/	不明		無	
122	2008/07/26	34	M	35	-	-	+	/	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
123	2008/07/27	36	M	45	-	-	+	/	不明		無	
124	2008/07/30	24	M	10	-	-	+	/	不明		無	
125	2008/08/20	19	M	17	+	-	+	/	不明		無	

※1: 問診喫食歴調査内容

05年1月1日～05年10月31日: 「過去3ヶ月以内にブタ、シカ、イノシシあるいは動物種不明の生肉、生レバーの喫食歴」

05年11月1日～06年03月31日: 「過去3ヶ月以内に生肉(半生も含む)、レバー、ホルモン(動物種、焼き方を問わず)の喫食歴」、なお本調査は06年03月31日をもって終了

安全対策業務の流れ

